

Title	京都大学結核胸部疾患研究所年報(昭和 55 年度)
Author(s)	
Citation	京都大学結核胸部疾患研究所紀要 (1981), 14(1/2)
Issue Date	1981-06-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/52177
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

京 都 大 学

結核胸部疾患研究所年報

昭 和 5 5 年 度

(1 9 8 1 年 3 月)

京都大学結核胸部疾患研究所

京 都 大 学

結 核 胸 部 疾 患 研 究 所 年 報

昭 和 5 5 年 度

(1 9 8 0 年)

京都大学結核胸部疾患研究所職員

(昭和56年2月1日現在)

所 長 教 授 寺 松 孝

(内科学第一部門)

主任教授：前川暢夫，助教授：中西通泰，講師：川合 満，助手：西山秀樹，倉澤卓也，坂東憲司，講師（非常勤）：吉田敏郎，池田宣昭，今井節朗，角田冲介，中井 準，吉見輝也，松原恒雄，河野博臣，技官：西尾貞子，本間トキエ

(内科学第二部門)

主任教授：大島駿作，助教授：泉 孝英，講師：木野稔也，助手：大山口渥，門 政男，松井祐佐公，平田健雄，講師（非常勤）：日置辰一郎，太田 勲，中島道郎，浅田高明，福間謙助，杉本幾久雄，小松幹雄，川上一郎，佐藤篤彦，池上達也，浅本 仁，山本 寿，岡田長保，技官：今井保代，技能補佐員：谷岡文子

(胸部外科学部門)

主任教授：寺松 孝，助教授：伊藤元彦，講師：清水慶彦，助手：玉田二郎，渡部智，瀧 俊彦，田村康一，講師（非常勤）：宮田暉夫，立石昭三，池田貞雄，北野司久，倉田昌彦，吉栖正之，秋山文彌，日野常稔，生島宏彦，外村聖一，伊東政敏，小林君美，人見滋樹，山本博昭，庄村東洋，技官：平井 要，技能補佐員：野口恵司

(病理学部門)

主任教授：安平公夫，助教授：竹田俊男，助手：鈴木康弘，細川昌則，講師（非常勤）：熊沢義雄，馬場満男，鶴藤 丞，三井洋司，新納英夫，山本 寛，小原幸信，笹瀬博次，羽田 淳，宗美琴子，技官：松下隆寿，小岸久美子，技能補佐員：富田由美子

(細菌血清学部門)

主任教授：桂 義元，助教授：細野正道，助手：喜納辰夫，西川伸一，講師（非常勤）：佐渡敏彦，徳永 徹，長田洋子，湊 長博，事務官：清水一枝，技能補佐員：高冲悠子

(細胞化学部門)

主任教授：市川康夫，助教授：大川欣一，講師：永田和宏，助手：前田道之，堀内正宏，講師（非常勤）：野々村禎昭，北村幸彦，矢原一郎，技官：竹内道子，事務補佐員：坪田晴子

(臨床肺生理学部門)

主任教授：佐川弥之助，助教授：加藤幹夫，講師：佐藤公彦，助手：大井元晴，講師（非常勤）：大橋啓吾，土

肥佳郎, 稲葉宣雄, 安田隆三郎, 真鍋 貴, 久野健志, 室本 仁, 市谷迪雄, 石部裕一, 仲田 祐, 折田雄一, 山林 一, 山田久和, 太田和夫, 阿部光幸, 技能補佐員: 服部央子, 石田嘉子

(事務部)

事務長: 北川治康, 事務長補佐: 船谷幸司, 庶務掛長: 水谷繁夫, 同主任: 近藤英子, 小林 収, 同事務官: 堀田良恵, 山本正幸, 同技官: 田中 稔, 川原田和夫, 事務補佐員: 小倉恵美子, 経理掛長: 田口雅朗, 同主任: 佐藤良雄, 野元頼子, 同事務官: 奥村成和, 前野正世, 田中義郎, 事務補佐員: 中瀬安子, 収入掛長: 前田次郎, 同主任: 畠中秀雄, 同事務官: 野田芳子, 佐竹セツ, 藤井芳克, 竹内孝子, 事務補佐員: 中村房枝, 集治昌代, 芦田明子, 患者掛長: 丹羽 博, 同主任: 室恵美子, 同事務官: 橋本敏子, 関 保子, 事務補佐員: 黒田俊子, 渡邊啓子, 管理掛長: 田中信雄, 同主任: 前田久男, 同技官: 進士 悟, 西川景曠, 岩井昭一, 松浦康, 小西喜一郎, 藤木清文, 同事務官: 高安忠一, 水原貞子, 渡辺光子

(動物飼育室)

技官: 飛田 勇, 門田一美, 大字雪雄, 安岡倉一, 近藤照子

(電子顕微鏡室)

技能補佐員: 森 敏博

(附属病院)

病 院 長 (兼) 教 授: 佐川弥之助

(第一内科診療科)

科 長 (兼) 教 授: 前川暢夫

外科医長 (兼) 講 師: 川合 満

病棟医長 (兼) 助教授: 中西通泰

医員 (研修医): 村山尚子, 武藤真, 藤本憲弘, 桜井信男

(第二内科診療科)

科 長 (兼) 教 授: 大島駿作

外来医長 (兼) 講 師: 木野稔也

病棟医長 (兼) 助教授: 泉 孝英

医員: 本田和徳, (北市正則), 藤村直樹, 満安清孝, 医員 (研修医): 荻原順一

(外科診療科)

科 長 (兼) 教 授: 寺松 孝

外来医長 (兼) 助教授: 伊藤元彦

病棟医長 (兼) 講 師: 清水慶彦

医員: 金城 明, 医員 (研修医): 五十部潤, 竹内吉喜

(放射線科診療部)

科 長 (兼) 教 授: 佐川弥之助

外来医長 (兼) 講 師: 佐藤公彦, 講 師 (非常勤): 阿部光幸

医員 (研修医): 平井正志, 岡田 融

(検査部)

検査部長 (兼) 助教授: 久世文幸, 医員: 北市正則, 技師長: 木津 啓, 技官: 前田清子, 黒住真史, 和田ひな, 増田 稔, 山根すま子, 技術補佐員: 田尻 睦, 春名和代, 技能補佐員: 橋本晴代

(放射線部)

放射線部長 (兼) 助教授: 中西通泰, 技師長: 浜川純一, 撮影主任: 蔵岡信良, 技官: 大坂泰夫, 曾我部康之, 灘井智代子, 田中龍蔵, 技能補佐員: 小林 忍

(薬剤部)

薬剤部長: 桑田 宏, 薬剤主任: 澤岡平和, 技官: 藤原壽子, 川田昌子, 小林千代子, 川勝一雄, 事務主任: 宇

野初枝

(看護部)

看護部長：細川ミツエ，看護婦長：松田比佐子，近藤信子，西森三保子，和多田すみ子，副看護婦長：小林とよ，斎藤千鶴子，山本喜美，技官：岩永千代子，松本敏枝，田中松代子，小林梅野，松田富子，明石和子，小林富貴子，小川まゆみ，米山須磨子，阿部喜代子，柴田佐代子，大山峯子，岩佐純子，末田恵子，稲田ひろ子，山中祥子，小泉カスミ，榊喜久子，井藤泰子，濃野ヒロ子，大野洋子，福田千恵子，横井照美，岩野京子，田尻春代，安藤純子，丘 恵子，笠岡清江，稲垣美智子，松田初枝，二宮トミ子，村西直美，衛藤泰子，内藤敏子，平畑早苗，宮城登代子，渡部幸子，平良セツ子，島袋和美，亀田久美子，米澤カヨ子，勇 恵子，坂東フサエ，中村多美子，園田正子，広川一枝，能井美千代，森 朝子，片桐久江，内木カネ子，松本不二，原田芳香，技能補佐員：渡辺ヒデ子，山崎真人

教 官 人 事

内 科 学 第 二 平 田 健 雄 助手

島根県出身。昭和48年9月京大医学部卒。研究領域は臨床免疫学。業績としては「血小板凝集法による Immune-complex 検出法の特性に関する基礎的研究」，「びまん性汎細気管支炎の免疫学的研究」，「PPD により誘導されるヒト末梢リンパ球の免疫グロブリン産生機構」などがある。昭和55年8月1日助手に任命された。

内 科 学 第 二 木 野 稔 也 講師

奈良県出身。昭和41年3月京大医学部卒。昭和42年12月本研究所助手。昭和46年6月から2年間米国，State University of New York at Buffalo, Department of Pathology (Prof. Cudkowicz) に留学。昭和50年1月医学博士。呼吸器内科学，特に気管支喘息を中心とした免疫学的肺疾患を専攻。業績としては「昆虫による気管支喘息の研究」，「遅延型アレルギーに關与するリンパ球の動態に関する研究」など多数がある。昭和55年8月1日講師に昇任した。

内 科 学 第 二 泉 孝 英 助教授

大阪府出身。昭和35年3月京大医学部卒。昭和40年9月京大大学院医学研究科博士課程を修了，同月医学博士。昭和40年9月助手。昭和42年8月より1年間米国ロックフェラー大学に留学。昭和46年7月より1年間スウェーデン国カロリンスカ研究所に留学。昭和50年1月講師に昇任。研究領域は呼吸器内科学，特に臨床免疫学。業績としてはサルコイドーシス，びまん性間質性肺炎，産業性肺疾患，肺感染症，肺癌など多種類の呼吸器疾患に関する基礎医学的並びに臨床医学的研究が多数ある。昭和55年8月助教授に昇任した。

胸 部 外 科 学 滝 俊 彦 君

昭和47年京大医学部卒。昭和55年9月，当胸部外科学部門助手。その間，桂病院呼吸器センターに勤務，昭和52年から昭和54年春まで，西ドイツのマーセン教授の許に留学していた。

なお独身。囲碁（五段），蝶の蒐集が趣味である好青年（？）。内科第1の先輩である滝長次先生の御長男。情熱家。

秀才御一家のうちの秀才という評判であるが，事実，これまでの仕事もすこぶる優秀と思われる。

胸部外科学 田村康一君

昭和46年京大医学部卒。昭和56年1月、当胸部外科学門助手。その間、国立療養所宇多野病院外科、次いで昭和50年から静岡市立静岡病院胸部外科、さらに再度宇多野病院に勤務していた。

静岡病院では心臓外科を専攻していたので、当部門でも、心臓外科手術については彼の力俤に負う処が大である。

二児の父。性格は温和ではあるが、自分の意見は出す。研究はこれからであるが、医用材料をやっている。人工血管が中心なので、部門としては将来血管外科医となることを期待している。

臨床肺生理学 大井元晴君

浅井信明講師の長尾病院への転出の後任として佐藤公彦助手が昇任し、その後へ大井元晴君が国療東京病院から転任された。

大井元晴君は開成高校、本学医学部を経て昭和48年当研究所附属病院研修医となり、その後、京都市立病院、当院、国療東京病院に勤務されている。

研修医以後、同君の研究テーマは一貫して呼吸不全であり、これに関する同君の論文は内外合せてすでに10編以上にのぼっている。

今日、呼吸不全は厚生省特定疾患となり、多くの協同研究がなされているが、同君のこの場での活躍もまためざましいものがある。

一見、温顔そのものであるが、うちに秘めた呼吸不全への情熱は目をみはるものがあり、難治そのものである呼吸不全の征服者として大井元晴君の名が将来残ることを期待し、また信じるものである。(佐川弥之助)

学術集会記録

I 昭和54年度学術講演会 (昭和55年1月26日, 京大会館)

1. 白血球の分化と運動能について

細胞化学部門 永田和宏

1969年、本研究室において樹立されたマウス骨髓性白血病細胞株 M1 は、種々の分化誘導因子 (マウス胎児細胞培養液, グルココルチコイド, LPS など) によって、マクロファージや好中球への分化を誘導される。その分化の指標として、従来、軟寒天中でのコロニーの拡散や貪喰能といった、いわゆる細胞運動機能の発現を利用してきたが、そのメカニズムについては現在までほとんど知られていない。

われわれの研究の目的は、M1 細胞の分化に際して、アクチン系にどのような量的・質的变化が起こっているかを、主として生化学的に調べることにある。このことを通して、癌細胞の分化、すなわち脱癌の機構をより詳細に解明する糸口としたいと考えている。

未分化の M1 細胞と、マウス胎児細胞培養液によって分化した M1 細胞の粗抽出液について、まずアクチンの量的変化を調べたところ、分化することによってアクチン含量も、その合成量も 1.5 倍程度の増加が見られた。またアクチンは重合することによって機能を発揮することは筋肉の場合と同様であるが、繊維状アクチンの割合が増加していることも確かめられた。一方、粗抽出液中に存在するモノマーアクチン (G-アクチン) が、試験管内で重合する能力については、分化の前後で一層際立った差のあることが明らかとなった。

そこで粗抽出液からアクチンを精製し、pure なアクチンについて分化前後の差を検討した。その結果、分化した細胞のアクチンは、未分化なものに比べて、1) 一定の条件下 (温度およびイオン強度) での重合 (重合速度

および臨界濃度)が、より筋肉のアクチンに近くなっていること、2) 筋肉ミオシンとの相互作用についてみると、ミオシンとの親和性がより大きくなっていること、がそれぞれ明らかとなった。

一方、分化誘導因子に抵抗性になり、押してもたたいても分化しなくなった D⁻ 株のアクチンは、アクチン自体の重合性が極めて悪くなっていることの他に、細胞粗抽出液中にアクチン重合阻害因子の存在することが確認され、現在精製を進めている。

2. Pokeweed mitogen 刺激による polyclonal Ig 産生における T 細胞の調節機能

細菌血清学部門 嘉 納 辰 夫

免疫反応の誘導および発現はさまざまな液性および細胞性の機構によって調節されていることが明らかである。抗原による免疫応答のモデルとしてよく用いられるマイトジェンによる *in vitro* のリンパ球刺激の系は、リンパ球活性化および B 細胞の免疫グロブリン (Ig) 合成の機構を研究する上で有用な手段を提供してきた。特に pokeweed mitogen (PWM) を用いた *in vitro* のポリクローナル Ig 産生系は、B 細胞活性化におけるヘルパーおよびサプレッサーなどの T 細胞の調節的役割を調べるのに有効であり、ヒトの種々の免疫疾患において、リンパ球機能の欠損を調べる目的で広く用いられている。しかしながら、PWM による Ig 産生誘導の機構およびそれに関与する T 細胞の性格等については不明な点が多い。我々はマウスリンパ球を用いて、PWM による免疫グロブリン産生反応の基礎的検討を試みた。

マウスリンパ球を至適濃度の PWM で刺激すると、培養開始後 5 日目にピーク値を示す一過性の Ig 産生反応がみられる。この Ig 産生には、脾臓およびリンパ節の B 細胞ともにヘルパー T 細胞の存在を必要とするが、リンパ節 B 細胞に比較して、脾臓 B 細胞では T 細胞への依存度が非常に弱い。このことは脾臓およびリンパ節の B 細胞間に機能的な差異が存在することを示唆している。この Ig 産生反応はヒトリンパ球の場合と同様にマクロファージの関与が不可欠である。兎抗マウス胸腺細胞血清 (ATS) を用いた実験から、脾臓には ATS に抵抗性を示すヘルパー T 細胞と感受性のヘルパー T 細胞の 2 種類が存在することが考えられたが、リンパ節では後者の感受性 T 細胞のみが存在することが明らかとなった。T 細胞をあらかじめ X 線あるいはマイトマイシン C で処理してもそのヘルパー活性は消失せずむしろ 2~3 倍の増強を示すことから、ヘルパー T 細胞の活性発現には、DNA 合成および細胞分裂は必要ないことが示された。またヘルパー活性の増強から、Ig 産生に抑制的に働くサプレッサー T 細胞の関与が考えられ、この点について調べた。T 細胞をさまざまな濃度の PWM で刺激後、正常の T および B 細胞の混合培養系に加えた場合、比較的高濃度の PWM で前処理した T 細胞を加えた群では、対照群に比較して Ig 産生が著明に低下した。このことは PWM の前刺激によって免疫グロブリン産生を抑制するような機能をもつサプレッサー T 細胞が誘導されたことを示している。このサプレッサー T 細胞は X 線照射に感受性を示し活性を消失することから、T 細胞の X 線照射によるヘルパー活性の増加は、T 細胞に含まれるサプレッサー T 細胞が選択的に除かれることによるものと推測される。なおこのサプレッサー T 細胞は ATS にも感受性を示す。以上の結果は、PWM による B 細胞の Ig 産生反応は T 細胞による正および負の両方向の調節を受けており、またこのような調節に関与する T 細胞はその細胞表面抗原によって異なる T 細胞集団に分けられることを示している。

3. 体外計測による肺循環の研究

臨床肺生理学部 三 嶋 理 晃, 久 野 健 志
中 川 正 清, 東 谷 康 治

肺循環系は、胸部の奥深くにあり、しかも右心と左心の間に介在している。したがって、肺循環系の検索は困難で、いまだに臨床的に応用し得るような簡便な肺循環動態の解析法は確立されていない。私共は、肺のシネアンギオグラムにおいて、正常例に比べて、C. O. P. D. 症例では、肺内における造影剤の停滞がみられ、肺血流の遅延が存在することを示唆している事にヒントを得、ラジオカルジオグラムと同様の手技を用いて、体外計測による肺循環動態の解析法を開発し検討したので、報告する。すなわち、^{99m}Tc-HSA を、右肘静脈より、

Oldendorf 法にて bolus として注入し、その放射活性を、前胸部より、ガンマカメラで測定し、肺野の time activity curve (P. V. D. C.) を記録し、解析を行なった。

もとより、胞血管網は、複雑な分岐を示し、しかも、右房圧、左房圧、静水圧、胸腔内圧、肺胞内圧等の影響を複雑に受ける弾性体であり、それら全ての要素を含んだモデルを設定する事は、困難である。そこで第1段階として、肺循環系を単一希釈槽モデルと仮定し、その時定数 τ_p を、P. V. D. C. より簡単に算出し得る方法を考案した。この τ_p は、C. O. P. D. 症例において増加の傾向を示し、他の肺機能諸値と比較的よい相関を認めた。理論的にはこの τ_p は、血液の洗い出しの遅さを表現するものであり、肺血液量と、肺血流量との比を示すものである。しかしながら、C. O. P. D. の症例ではこの比の増大は考えられず τ_p の増加の原因を、この両者の比の増大に求める事はできない。そこで、肺循環系を、並列多重通過管モデル、及び、並列多重希釈槽モデルと仮定し、各々の分布をガンマ分布にあてはめ、デジタルコンピューターを用いて、S. D. (標準偏差) を求めた。この S. D. も、C. O. P. D. 症例において増加の傾向を示し、他の肺機能検査諸値とよい相関を認めた。この S. D. は、肺血流動態の不均等性を示す指標に他ならない。また、この S. D. は、 τ_p とよい相関を認め、 τ_p の見かけ上の増大をもたらす一因として、肺血流動態の不均等が関与している事が示唆された。この事は、簡単に算出し得る τ_p が、肺血流動態の不均等を示すパラメータとなり得る事を示している。本解析法は、現在の所、解決すべき様々な問題を含んでおり、現段階では、 τ_p のみで、肺循環障害の程度を決定する事は危険であるが、本法の簡便さと、得られる情報の多さ、すなわち、非観血的、非努力依存的に施行でき、しかも RCG, 心拍出量、心係数、循環血液量等の多くの情報を同時に得られる事を考慮すると、本法は、種々な心肺疾患における、血流動態の解析法として、臨床的に有用であると考えられ、今後、さらに、検討を進めて行きたいと考えている。

4. 気管支喘息患者管理上の問題点

内科学第一部門 川 合 満

気管支喘息の全治は困難であるとしても、発作を防ぎ病者の苦痛を除き正常に近い状態にすることは病者のみならず家族のためにも必要なことである。

気管支喘息の長期管理の原則として日常生活に注意し発作を誘発させる要因を避けることが必要である。また心理的な管理も大切であるが、今回は外来での薬剤による喘息の管理につき若干の知見を報告する。

気管支喘息の病因は種々あるが、重要なのは気道の過敏性とアレルギーである。アレルギーには Gell & Coombs の分類による I 型と III 型の関与がみられる。感染や運動も発症に関与するので、初診時問診及び検査によってその病因を推定する。尚アレルギー家族歴及び既往歴、末梢血好酸球、RIST 法による IgE 値、皮膚反応などが判断の参考になる。

我々は喘息治療の主剤として aminophylline を高く評価している。気管支喘息を Szentivanyii のいう β -adrenergic receptor の異常という概念より考えると receptor の異常(数・機能の異常)のあるものに β -刺激剤を用いるよりも phosphodiesterase を抑制する Xanthine 系薬剤の方が合理的であり、副交感神経の異常が関与している喘息にも有効だからである。最近 aminophylline の至適血中濃度は $10 \sim 20 \mu\text{g/ml}$ で、それ以上だと悪心、嘔吐などの副作用が、それ以下なら効果が少ないことが明らかにされた。我々も薬剤部の協力を得て高速液体クロマトを用い血中濃度を測定しているが、aminophylline 5 mg/kg の入った輸液 500 ml を90分かけて点滴すると有効血中濃度が得られる。この知見をもとにして慢性通年型喘息に対する aminophylline の長期間歇輸液療法(1週1~2回)を行ない β -刺激剤、ステロイドの減量を試みた。これは aminophylline の効果に輸液による効果が加わったものと考えられるが、6カ月以上継続できた例では β -刺激剤を $1/2$ 以上減量できたもの34例中13例、持続性ステロイドの注射間隔を7日以上延長できたもの23例中18例、経口剤では prednisolone 2.5 mg 以上減量できたもの3例中2例である。副作用の3例は aminophylline の減量により消失した。慢性喘息の治療に外来で積極的に aminophylline の点滴を用いると管理が容易になる。

次に慢性喘息でステロイド依存性患者の間脳-下垂体-副腎皮質系のバランスを考慮した ACTH-Z 療法を紹介する。気管支喘息患者を rapid ACTH test で副腎皮質機能より三つの型に分け moderate suppression, severe suppression に対し必要量のステロイドとともに生理的必要量の ACTH-Z ($2 \sim 4 \text{ U}$) を日内変動にあわせて朝9

時に注射する方法である。数年間の治療で生理的な stress に対して副腎皮質が充分反応することを確認している。しかし合成 ACTH による adverse reaction もあり注意が必要である。最後に長期の管理には、特に医師と患者の信頼関係が大切であることを再度強調しておきたい。

5. 昆虫による気管支喘息

内科第二部門 木野稔也

昆虫のうちで Lepidoptera 目に属する蝶・蛾は、翅に鱗粉・鱗毛を持つことにより、ブタクサ花粉等と同様に人の吸入アレルゲンとなりうるための Thommen の五原則を満たしている。それにもかかわらず、これら昆虫の吸入性アレルゲンとしての位置づけは低く、わずかに養蚕業等に従事する者に発生する職業性アレルギー（気管支喘息、鼻炎）における原因アレルゲンとして、一部に認識されていただけであった。

人を取りまく昆虫環境と上記五原則をかえりみて種々の検討を加えた結果、養蚕業等の職業歴を持たない一般の気管支喘息患者の 55～60% が蝶・蛾に対する皮内反応の陽性を示し、そのうち少なくとも 2/3 に特異的 IgE 抗体を検出した。この陽性率は、我が国で最も common な吸入アレルゲンであるダニに対する陽性率に匹敵する高率である。蝶・蛾の間では、おおむね IgE level での交叉反応性があり、従って繁殖力の強い“かいこ蛾”を用いることにより、アレルゲン作成のための材料不足が解決された。

これら昆虫アレルゲンによる吸入誘発試験の結果に加え、蝶・蛾特異的 IgE 抗体の季節変動が蝶・蛾の季節発生頻度と特異的 IgE 抗体を持つ患者の発作好発季節とによく一致したことから、これら昆虫が、職業性喘息ばかりでなく、一般の気管支喘息患者の common な吸入アレルゲンとなっていることが明らかとなった。

6. 胸腺関連腫瘍の分類と治療——ヌードマウス移植腫瘍の所見を中心に——

胸部外科学部門 伊藤元彦

前縦隔に発生する腫瘍の多くは、その発生において胸腺との関連性を有し、われわれはこのような腫瘍を“胸腺関連腫瘍”と名づけている。これらのなかには、狭義の胸腺腫、扁平上皮癌、カルチノイド、奇形腫群腫瘍などが含まれ、表1のようにそれぞれその発生母地が異なっているものと考えられる。

胸腺腫をヌードマウスに移植すると、原腫瘍では上皮性腫瘍細胞とリンパ球とが胞巣内で混在しているのに対し、移植腫瘍においては移植後9カ月のものにおいてさえ、リンパ球が、上皮性腫瘍細胞からなる胞巣の辺縁部に集中して存在している。これは、マウス由来リンパ球が新たに腫瘍細胞辺縁部に誘導されたものと考えられ、誘導されたリンパ球量は原腫瘍のそれをよく反映する。また、低 γ -globulin 血症を示した胸腺腫を移植されたヌードマウスにおいては、S.R.B.C.—P.F.C. によって抗体産生能の低下がみとめられた。このように胸腺腫はリンパ球誘導能をもった上皮性腫瘍で、かつ host に何らかの免疫学的影響を与える腫瘍であることが示される。

奇形腫群腫瘍 (germ cell tumors) も分類や分化が興味深い。これらの腫瘍をヌードマウスに移植すると高率に生着し、継代による組織学的変化を観察してみると、embryonal carcinoma cell (teratocarcinoma stem cell) を中心に yolk sac tumor, choriocarcinoma, teratoma への方角への分化のふりわけが行なわれるという、germ cell

表1 発生母地からみた胸腺関連腫瘍

皮質上皮細胞	胸腺腫（リンパ球型、混合型、上皮型）
髄質角化型細胞	扁平上皮癌
髄質 APUD 細胞	カルチノイド oat cell cancer
胚細胞？ 生体幹細胞？	奇形腫群腫瘍 (seminoma, embryonal carcinoma, choriocarcinoma, yolk sac tumor, teratocarcinoma, mature teratoma)
？	thymolipoma
Thymoglossal duct 遺残	thymic cyst

tumor 一元説を支持する所見がえられた。

また、継代中の1匹のヌードマウスにおいては、移植腫瘍は完全に分化して mature teratoma のみの像を示した。このことは stem cell が分化しつくすか否かが teratoma の悪性度を規定することを示すもので、mature teratoma や dermoid cyst が発生学的には teratocarcinoma, choriocarcinoma, yolk sac tumor など同様の機序で生ずることを示唆するものである。

胸腺関連悪性腫瘍の治療には、切除に放射線治療を加えるのが標準的であり、成績も良好であるが、oat cell cancer と非セミノーマ性の germ cell tumor には放射線が無効である。したがって、oat cell cancer や非セミノーマ性 germ cell tumor に対する化学療法の開発が今後の問題点となる。

7. 肉芽性肺疾患のモデル実験

病理学部門 安 平 公 夫, 木 下 和 之
松 下 隆 寿

1) 肺の類上皮細胞肉芽腫症：結核死菌で感作した兎の肺に、菌体成分ロウDを注入すると、注入部に巨大な単発性の類上皮細胞肉芽腫が発生することは既に発表済みである。ロウDに代えて結核死菌を注入すると、既に知られているように空洞を伴う壊死分界肉芽が発生するが、このとき菌をアセチル化にしておくと、発生する肺病巣は非壊死性の類上皮細胞巣となる。このように壊死化因子は、アセチル化によって無力となる。ロウD成分のうち強力な Arthus 抗原性を有する peptidoglycan が、生物学的には無活性なミュール酸と結合すると強力な遅延型抗原性を獲得し、これが類上皮細胞巣形成の原動力となる。

2) 肺の好酸性肉芽腫症：兎の肺に、500 mg/0.1 ml の脂肪酸及びその関連物質を注入すると、1週間後には好酸球の浸潤した肉芽を発生する。好酸球の集積量は種々であるが、その肉芽の基盤は組織球(マクロファージ)の増殖による肉芽で、これは好酸球肉芽の記載に一致する。10倍対物鏡一視野中の好酸球数で計ると、PG-E₂, アラキドン酸が平均100以上、次いで GP-E₁, LPS, パルミチン酸, リノレニン酸, ベヘニン酸, モンタン酸が50前後、他は control に近く20以下。結核菌体成分では、ミュール酸, フチオン酸, その他各種のリポイドのすべてが、20以下と算定された。細胞浸出部としては、肺の細動脈, 肺胞毛細血管が示唆された。

3) 肺の形質細胞肉芽腫症：マウスの肺に結核死菌またはそのロウD画分を注入すると、肺動脈を中心に形質細胞の異常な増殖が起る。経時的に調べると、形質細胞の増殖は先ず所属リンパ腺の芽中心で起り、次いで芽中心はリンパ濾胞より脱出して洞に接近し、増殖した形質細胞は洞索を充満し、洞をみたす。この増殖形質細胞が肺に達し、肺動脈周囲に浸出し(1週間後)、次第に集積し(2週)、終に気管支周囲結合織を充満する(第3週以後)。この形質細胞の大半は IgA 産生細胞であり、次で IgG 産生細胞, IgM 産生細胞であることが判明した(螢光抗体法, 酵素抗体法)。目下その詳細を研究中である。

II 胸部研談話会

第11回 55年3月6日 加藤弘文(胸部外科): Polyvinylalcohol-Silica Composite の医学的応用

III 特別ゼミナール(55年度)

- | | | | |
|-----|----------|-----------------------------|---------------------|
| 92回 | 55年4月26日 | 白血球の食作用にともなう酵素の代謝 | (都立臨床医学総合研究所) 柿沼カツ子 |
| 93回 | 55年9月20日 | 細胞レベルの老化機序について | (東京都老人総合研究所) 三井 洋司 |
| 94回 | 55年11月1日 | 微量元素(銅・亜鉛・錫)の骨組織におよぼす影響について | (京都女子大学家政学部) 新納 英夫 |

業 績 目 録

内 科 学 第 1 部 門

〔学 会 発 表〕

1. 結核, 非定型抗酸菌症

李 英徹, 久世文幸, 前川暢夫: マウスを対象とした *M. intracellulare* 吸入感染の試み, 第55回日本結核病学会総会 (昭55.3)

亀崎 洋, 倉沢卓也, 前川暢夫: 気管腫瘍を疑わしめた気管, 気管支結核の1例, 第101回日本内科学会近畿地方会 (昭55.5)

山鳥英世, 池田宣昭, 前川暢夫: ガス曝露下に於ける結核化学療法の実験的研究, 第46回日本結核病学会第16回日本胸部疾患学会近畿地方会 (昭55.11)

宮本 寛, 中井 準, 佐藤明世: 肺病巣から分離されたナイアシン陽性の *M. avium-intracellulare* complex について, 同

李 英徹, 坂東憲司, 倉沢卓也, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: 重症肺結核強化化学療法中にみられた胸部X線所見の悪化について, 同

川合 満, 牛田伸一, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: 吸入ステロイド Beclomethasone dipropionate (BDI) により誘起されたと考えられる肺結核の1例, 同

倉沢卓也, 坂東憲司, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦: 悪性腫瘍末期に合併した結核症例の検討, 第28回日本化学療法学会総会 (55.6)

前川暢夫, 川合 満, 馬淵尚克: 結核化学療法の強化に関する実験的研究, 日本結核化学療法研究会総会 (昭55.6)

前川暢夫, 久世文幸, 李 英徹: 諸種消毒剤の喀痰中結核菌に対する殺菌効果, 同 (昭55.12)

2. 腫 瘍

戸川真一, 倉沢卓也, 中西通泰, 前川暢夫, 細川昌則, 竹田俊男: 全身皮下に転移性腫瘍を形成した気管支原発の非定型 carcinoid, 第32回肺癌学会関西支部会 (昭55.2)

黒田 昭, 日野 恵, 藤見勝彦, 波多 信, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井準, 中山志郎, Endobronchial malignant lymphoma の1例, 同

田口善夫, 岡村昭夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 宮本好博, 北野司久, 小橋陽一郎, 市島国雄, 山辺博彦: 肺癌が強く疑われた Pseudolymphoma の1例, 同

石原享介, 波多 信, 黒田 昭, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井 準, 岡本交二, 宮本 寛, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 肺癌患者におけるCEA—特に術前術後における経時的測定—の臨床的意義と限界, 同

網谷良一, 田口善夫, 岡村昭夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 小橋陽一郎, 市島国雄, 山辺博彦, 相原雅則: 末期肺癌における呼吸器感染症, 一剖検肺での原因菌の検索, 同

岩田猛邦, 田口善夫, 岡村昭夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 松原恒雄, 亀崎 洋, 山田栄一, 牛田伸一, 戸川真一, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫: 外来維持療法としての抗癌剤隔週間歇投与の試み, 同

種田和清, 郡義明, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 岩田猛邦, 松原恒雄, 小橋陽一郎: 小細胞癌の治療中に扁平上皮癌の全身転移で死亡した肺癌の1剖検例, 第33回肺癌学会関西支部会 (昭55.8)

牛田伸一, 武藤 真, 村山尚子, 桜井信男, 藤本憲弘, 戸川真一, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫: 自然気胸を初発とした若年者肺癌の1例, 同

田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 高橋憲太郎, 前里和夫, 人見滋樹, カレド・レシャード, 光岡明夫, 北野司久: 抗癌剤の胸膜透過性の検討, 第21回日本肺癌学会総会 (昭55.11)

坂東憲司, 戸川真一, 牛田伸一, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫, 長谷光雄, 石橋達雄, 賀戸重允, 内平文章, 小田芳郎, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦: 若年者における原発性肺癌, 同

岩田猛邦, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 松原恒雄, 小橋陽一郎, 市島国雄, 山辺博彦: 非手術扁平上皮癌の32剖検例の臨床像, 病理像の検討, 同

波多 信, 坂本広子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 森 徹: 原発性肺癌における骨シンチの臨床的有用性について, 第20回日本核医学会総会 (昭55.10)

石原享介, 中井 準, 田中交二, 福山 守, 宮本 寛, 西内 素, 中村隆澄, 秦 紘, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 石綿肺に合併した悪性中皮腫の1例, 第46回日本結核病学会, 第16回日本胸部疾患学会近畿地方会 (昭55.12)

3. 感染症の化学療法

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 倉沢卓也, 西山秀樹, 戸川真一: CGP-9000 の呼吸器感染症に対する臨床的研究, 第27回日本化学療法学会総会 (昭54.6)

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 倉沢卓也, 西山秀樹, 牛田伸一, 山田和範: SCE-1365 の呼吸器感染症に対する臨床的研究, 第28回日本化学療法学会総会 (昭55.6)

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 倉沢卓也, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 岩田猛邦: 呼吸器感染症に対する Apalcillin と Carbenicillin の薬効比較試験成績, Apalcillin 1日4g と Carbenicillin 1日4g の比較, 第28回日本化学療法学会西日本支部総会 (昭55.12)

前川暢夫: 特別発言, ステロイド投与と致死の感染症 (シンポジウム, 難治感染症に対する多角的治療) 同

4. 気管支喘息

望月吉郎, 田口善夫, 岡村昭夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 笹沼竹雄: 気管支喘息における臨床統計的研究, 第3報, ヒスタミン固定能, 第101回日本内科学会近畿地方会 (昭55.5)

望月吉郎, 田口善夫, 岡村昭夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 笹沼竹雄: 気管支喘息発作時に縦隔気腫, 皮下気腫, 自然気胸を発生した1症例, 同

川合 満, 宗重 彰, 浜西正三, 富井秀明, 阪井 胖, 三島理晃, 久野健志, 気管支喘息を伴った妊娠16例の検討, 第54回兵庫県産婦人科学会 (昭55.6)

川合 満, 前川暢夫: 副腎皮質ステロイド使用疾患例の妊娠, 出産について, 第30回日本アレルギー学会総会 (昭55.9)

種田和清, 田口善夫, 岡村昭夫, 望月吉郎, 網谷良一, 岩田猛邦, 松原恒雄, 笹沼竹雄: Triamcinolone acetoneによる喘息の治療 (第2報) 一主として老人喘息を中心に。第20回日本胸部疾患学会総会 (昭55.4)

5. その他

岩田猛邦, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 松原恒雄, 前川暢夫, 赤坂清司, 小橋陽一郎: 悪性疾患に合併したARDSの検討, 第20回日本胸部疾患学会総会 (昭55.4)

網谷良一, 田口善夫, 岡村昭夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 笹沼竹雄, 小橋陽一郎, 市島国雄, 川辺博彦, 相原雅典: 原因不明のびまん性間質性線維化肺炎における長期ステロイド治療による致死の呼吸器感染症, 膠原病による間質性肺炎との比較, 同

戸川真一, 小橋恭子, 稲田雅美, 富本浩明, 亀山正邦, 南風原英之: 運動失調を伴ったカルチノイドの1例, 第101回日本内科学会近畿地方会 (昭55.5)

倉沢卓也, 戸川真一, 坂東憲司, 西山秀樹, 川合満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄: 非結核性急性膿胸の臨床的検討, 第27回日本化学療法学会総会 (昭54.6)

田口善夫, 郡 義明, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 市島国雄, 小橋陽一郎: 気管, 気管支アミロイドーシスの1例, 第46回日本結核病学会, 第16回日本胸部疾患学会近畿地方会

藤本憲弘: *Pneumocystis carinii* 肺炎, 症例検討, 同

網谷良一, 郡 義明, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 林 知郎: 妊娠(9カ月)に生じた両側同時自然気胸の1例, 同

望月吉郎, カレッド・レシャード, 水野 浩, 北野司久, 相原雅典: 胸部形成術後に発生した *Campylobacter* の1症例, 同

梅田文一, 坂本広子, 波多 信, 石原享介, 黒田 昭, 岩崎博信, 中井 準: 慢性閉塞性肺疾患を伴う刀鞘型気管症9例の臨床的検討, 同

石原享介, 伊吹康良, 太田仁八, 浅香隆久, 坂本広子, 波多 信, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, *Thermoactinomyces vulgaris* によると思われる夏型過敏性肺臓炎の1例, 同

石村栄治, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄: *mycoplasma pneumoniae* による髄膜炎と考えられる1例, 第103回日本内科学会近畿地方会(昭55.12)

河野博臣, 五百蔵昭夫: 癌患者の心身医学的研究(第2報), 第4回日本心身医学会近畿地方会(昭55.1)

河野博臣, 五九暮昭夫: 癌患者の心身医学的研究(第3報), 第21回日本心身医学会総会(昭55.6)

〔誌 上 発 表〕

1. 結 核

前川暢夫他: 共同研究(療研), 肺結核患者の入院時における薬剤耐性, 第1篇, 1977年の調査成績と前7回の成績の比較, 結核, 54:515~522, 1979.

前川暢夫他: 共同研究(療研), 肺結核患者の入院時における薬剤耐性, 第2篇, 耐性の頻度に関連する因子について, 結核, 54:549~555, 1979.

前川暢夫, 他: 共同研究(療研), 初回治療における INH. RFP. EB 併用と INH. RFP. PZA 併用の比較に関する研究, 結核, 55:7~13, 1980.

稲掛英男: 結核菌におけるアミノグルコシッドおよびポリペプチド系薬剤相互間の交叉耐性について, 結核, 55:281~288, 1980.

稲掛英男, 山鳥英世, 井上 昇, 馬淵尚克, 池田宣昭, 前川暢夫: 結核菌における CPM 耐性菌の KM 耐性度, ならびに VM 耐性菌の KM 耐性度および CPM 耐性度について, 結核, 55:323~330, 1980.

馬淵尚克: 慢性結核症に対する化学療法強化の限界, 京大胸部研紀要, 13:25~31, 1980.

前川暢夫, 肺結核, 診断と治療, 68:65~69, 1980.

前川暢夫: 肺結核症, 総合臨床, 28:2345~2350, 1980.

2. 感染症の化学療法

山田栄一, 賀戸重允, 角田冲介, 中井 準, 清水喜八郎他, 共同研究: 呼吸器感染症に対する KW-1062 と Dibekacin の二重盲検法による薬効比較試験成績, Chemotherapy 28:412-441 1980.

山田栄一, 賀戸重允, 角田冲介, 中井 準, 清水喜八郎他, 共同研究, 呼吸器感染症に対する Sisomicin と Dibekacin の二重盲検法による薬効比較試験成績, Chemotherapy 442-471, 1980.

前川暢夫, 中西通泰, 松原恒雄, 網谷良一, 小田芳郎, 内平文章, 中井 準他: 共同研究, 二重盲検法による Cefroxadine (CGP-9000) と cephalexin の急性気道感染症に対する薬効比較試験, Chemotherapy, 28:918~963, 1980.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 倉沢卓也, 西山秀樹, 戸川真一, 稲葉宣雄, 賀戸重允, 長谷光雄, 網谷良一: Cefroxadine (CGP-9000) の呼吸器感染症に対する臨床的研究, Chemotherapy 28, S-3, 245-249, 1980.

前川暢夫, 中西通泰, 倉沢卓也, 坂東憲司: Cefadroxil (BL-S 578) の呼吸器感染症に対する臨床的研究, Chemotherapy, 28, S-2, 214~217 1980.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 倉沢卓也, 西山秀樹, 坂東憲司, 戸川真一: Cefoperazone (T-1551)

の呼吸器感染症に対する臨床的研究, *Chemotherapy*, 28, S-6, 475~479, 1980.

前川暢夫, 中西通泰, 真下啓明他: 共同研究, KW-1062 の臨床的検討, *感染症学雑誌*, 54:139~156, 1980.

前川暢夫, 中西通泰, 松原恒雄, 岩田猛邦, 賀戸重允, 北本治他: 共同研究, 呼吸器感染症に対する Cefotaxime と Cefazolin の薬効比較試験, *感染症学雑誌*, 54:471~517, 1980.

前川暢夫, 中西通泰, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 内平文章, 松原恒雄, 岩田猛邦, 賀戸重允, 久世文幸, 三本文雄他: 共同研究, 呼吸器感染症に対する Cefotaxime 4 g と Cefazolin 4 g の薬効比較試験, *感染症学雑誌*, 54:627~693, 1980.

前川暢夫, 中西通泰, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 中川圭一他: 共同研究, 呼吸器感染症に対する Cefoperazone (T-1551) と Cefazolin (CEZ) の二重盲検法による薬効比較試験成績 (第2報), *感染症学雑誌*, 54:798~835, 1980.

3. 気管支喘息

川合 満, 前川暢夫, 気管支拡張剤 fenoterol hydrobromide (Berotec) 錠の頓用および連用による治療効果と安全性, *日胸*, 39:522~530, 1980.

前川暢夫, 川合 満, 八倉隆保他: 共同研究, 新 β 受容体刺激性気管支拡張剤 Procaterol の気管支喘息に対する薬効検討—全国30施設共同による二重盲検群間比較試験, その1, 頓用試験, *医学のあゆみ*, 111:196~215, 1979.

前川暢夫, 川合 満, 信太隆夫他: 共同研究新 β 受容体刺激性気管支拡張剤 Procaterol の気管支喘息に対する薬効検討, 全国30施設共同による二重盲検群間比較試験, その2, 連用試験, *医学のあゆみ*, 111:544~558, 1980.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 倉沢卓也, 西山秀樹, 坂東憲司, 戸川真一, 李 英徹, 内藤祐子, 山鳥英世, 松原恒雄, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 網谷良一, 中井 準, 山田栄一, 石原享介, 黒田 昭, 岩崎博信, 賀戸重允, 長谷光雄, 吉田敏郎, 池田宣昭, 小沢 晃, 岩井嘉一, 馬淵尚克, 井上 昇, 稲掛英男: 気管支喘息患者に対する A A-344 の臨床効果, *臨床と研究*, 57:213~225, 1980.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 倉沢卓也, 西山秀樹, 坂東憲司, 戸川真一, 李 英徹, 内藤祐子, 山鳥英世, 松原恒雄, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 網谷良一, 中井 準, 山田栄一, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 内平文章, 賀戸重允, 石橋達雄, 吉田敏郎, 池田宣昭, 小沢 晃, 岩井嘉一, 馬淵尚克, 井上 昇, 稲掛英男: 経口抗アレルギー薬 HC 20-511 (ketotifen) の成人気管支喘息に対する臨床的検討, *臨床と研究*, 57:586~596, 1980.

川合 満, 浜田朝夫, 前川暢夫, 後藤 武, 信太隆夫, 松田昌子, 油井泰雄, 山崎正保: TA-073 の経口投与による気管支拡張効果の検討, *臨床と研究*, 57:3049~3054, 1980.

川合 満, 前川暢夫, 角田沖介, 山田栄一, 伊藤和彦他: 共同研究, 気管支喘息に対する tiaramide の効果, 多施設二重盲検試験による検討, *臨床と研究*, 56:3761~3775, 1979.

4. 心身医学

河野博臣: 死の受容と家族の問題, 死の臨床, 1:1, 1978.

河野博臣: 癌と死の臨床, 死の臨床, 2:1, 1979.

河野博臣: 死にゆく患者と家族の関係, 死の臨床, 3:1, 1980.

河野博臣: 死の精神療法, 精神療法, 5:1, 1979.

河野博臣: いのちへの畏れ, 生命の重みを考える, 看護学生, 28:1, 1980.

河野博臣: 生命の畏敬と死の臨床, 医師薬進学, 5:6, 1980.

河野博臣: 死の臨床と心身症, 臨床看護, 6:3, 1980.

河野博臣: 交流分析とユング分析心理学, 交流分析研究, 2:1, 1980.

河野博臣: 心身症に対する箱庭療法の適応と限界, 心身医学, 19:2, 1979.

河野博臣: 患者の最後をどう看取るか, *Modern Medicine*, 102:7, 1980.

河野博臣: 医学におけるネガティブデーターの意味, 看護研究, 13:11, 1980.

5. そ の 他

藤井謙裕, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 小橋陽一郎, 市島国雄, 山辺博彦, 倉沢卓也: 自然気胸で発症し, 多臓器に Peliosis 様病変を認めた peliosis hepatis の1例, 日胸疾会誌, 17:693~697, 1979.

前川暢夫, 倉沢卓也, 坂東憲司: 気管支造影・気管支ファイバースコピー, 臨床と研究, 56:3847~3854, 1979.

前川暢夫, 倉沢卓也, 種田和清, 岩田猛邦, 膿胸の治療法, 臨床科学, 16:376~381, 1980.

石原享介, 波多 信, 黒田 昭, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 横井登志子, 北島 薫, 中山志郎, 上野謙蔵: 経気管支ブラッシングにより診断した pneumocystis carinii 肺炎の1例, 日胸, 39:237~241, 1980.

石原享介, 波多 信, 黒田 昭, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井 準, 岡本交二, 宮本 寛, 西山 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 肺癌患者における CEA- 特に術前術後における経時測定臨床的意義と問題点, 日胸, 39:1022~1029, 1980.

前川暢夫, 加藤幹夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 泉 孝英, 倉沢卓也, 西山秀樹, 呼吸器病学(臨床医学の展望, 特集), 日医新, No. 2912, 3~10, 1980.

石原享介, 波多 信, 黒田 昭, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井 準, 新垣光弥, 上野謙蔵, 谷口脩二, 宮本 武, 内田博也, 中院邦彦: 血管造影によって診断した PN の1例, 日本臨床, 39:463~468, 1981.

田中健一: ペンシジン系色素投与ラット尿の変異原性について, 産業医学, 22:194~203, 1980.

Ken-ichi Tanaka, et al; mutagenicity of extracts of urine from rats treated with aromatic amines, Mutation Research, 79; 173~176, 1980.

Ken-ichi Tanaka, contact sensitivity in mice induced by tolylene diisocyanate (TDI), J. Dermatology 7: 277~280, 1980.

中西通泰: 重症感染症と抗生物質, グロブリン製剤, その適切な使い方をめぐって, Medicament News, No. 944, 1980.

久世文幸, 最近の呼吸器疾患, II, 非定型抗酸菌症, 中外製薬, 1980.

6. 著 書

河野博臣: 生と死の心理, ユング心理学と心身症, 創元社, 1977.

河野博臣: 分担執筆, 石川中編, 心身医学, 朝倉書房, 1979.

河野博臣: 共著, 臨床社会心理学, 至文堂, 1979.

河野博臣: 分担執筆, 大江健三郎, 中村雄五郎編, 文化の現代6, 岩波書店, 1980.

中西通泰: 気管支拡張症, 分担執筆, 今日の治療指針1980, 医学書院, 1980.

中西通泰: 呼吸器系, 分担執筆, 亀山正邦編, 老年内科学, 金芳堂, 1980.

7. 研究会, 講演会, その他

川合 満: 気管支喘息患者管理上の問題: 京大結核胸部疾患研究所学術講演会(昭55.1)

波多 信, 中井 準: 労作性呼吸困難を主訴とし, 関節痛, 咳, 痰を認め胸部異常陰影を呈した例, 第8回びまん性肺疾患研究会(昭55.2)

西山秀樹, 前川暢夫, 北市正則, 細川昌則: 急性感染症を合併し進行性破壊性肺病変を呈した1例, 第9回びまん性肺疾患研究会(昭55.7)

波多 信, 中井 準: インコ飼育者にみられたびまん性肺疾患の1例, 同

牛田伸一, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 前川暢夫, 北市正則: DPB の2例, 第10回びまん性肺疾患研究会(昭55.10)

坂本広子, 波多 信, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 内田博也, 白根博文: 第11回びまん性肺疾患研究会(昭55.12)

桜井信男, 坂東憲司, 前川暢夫: 気管支鏡下に興味ある結節性病変を認めた PIE 症候群の1例, 近畿気管支

鏡懇話会 (昭55.11)

- 中西通泰：抗生剤の使い方，京都伏見医師会学術講演会 (昭55.3)
- 中井 準：最近の呼吸器感染症の薬物療法について，神戸北医師会学術講演会 (昭55.10)
- 中井 準：肺癌の臨床，特にその診断について，奈良医師会学術講演会 (昭55.10)
- 中西通泰：非結核肺疾患について，神戸垂水医師会学術講演会 (昭55.11)
- 前川暢夫：呼吸器感染症の種々相，京都医師会，京都胸部医会学術講演会 (昭55.11)
- 前川暢夫，中西通泰：SCE-1365 研究会 (昭55.1)
- 前川暢夫，中西通泰：CS-1170 研究会 (昭55.1)
- 前川暢夫，中西通泰：KW-1070 研究会 (昭55.3)
- 中西通泰：T-1551 研究会 (昭55.5)
- 中西通泰：PC-904 研究会 (昭55.8)
- 中西通泰：MZPC-ABPC 研究会 (昭55.8)
- 川合 満，前川暢夫他：TY-0048 研究会 (昭55.3)
- 川合 満：Y-12141 研究会 (昭55.4)
- 前川暢夫，川合 満他：クレンプテロール研究会 (昭55.6)
- 川合 満：IG-10 臨床研究会 (昭55.7)
- 川合 満：BD 40 A 研究会 (昭55.8)
- 川合 満：NA 872 研究会 (昭55.9)
- 川合 満：気管支喘息のアミノフィリン療法，京滋喘息懇話会 (昭55.9)
- 川合 満：KW-4354 (Oxatomide) 気管支喘息研究会 (昭55.10)
- 川合 満，長野 準他：気管支喘息のステロイド療法，Ist Rokko Conference (昭55.12)
- 岩崎博信，藤見勝彦，日野 恵，波多 信，黒田 昭，石原享介，梅田文一，山田栄一，中井 準，平田 昭，宮本 覚，立道 清，庄村東洋，吉栖正之，内田博也：気管支カルチノイド腫瘍と悪性胸腺腫が合併した一症例，第17回兵庫県肺疾患懇話会 (昭55.6)
- 波多 信，坂本広子，石原享介，岩崎博信，梅田文一，中井 準：高カルシウム血症を呈した原発性肺癌の6例，第18回兵庫県肺癌懇話会 (昭55.11)
- 河野博臣：心身症と心身医学，加西市医師会 (昭55.2)
- 河野博臣：死の臨床，基礎と実際，福山医師会 (昭55.2)
- 河野博臣：心身症と心身医学，広島超心理学会 (昭55.4)
- 河野博臣：ユング心理学，影と自我，広島交流分析研究会 (昭55.6)
- 河野博臣：自己実現とグレイトマザー，新潟ユング心理学研究会 (昭55.7)
- 河野博臣：学校恐怖症と心身症，兵庫県高等学校養護教育研修会 (昭55.8)
- 河野博臣：末期癌患者のアプローチ，神大医学部耳鼻科
- 河野博臣：癌末期患者の援助，第33回臨床医学と看護セミナー (昭55.7)
- 河野博臣：晩期癌患者の援助，消化器臨床セミナー
- 河野博臣：医学，看護とファンタジーグループ，第9回ファンタジーグループ，ワークショップ (昭55.4)
- 河野博臣：心身医学とユング心理学，日本心身医学協会第2回全国研究会 (昭55.12)
- 河野博臣：ユング心理学と心身症，朝日カルチャー講座 (昭55.4～55.12)

内 科 学 第 2 部 門

1. 免疫学の基礎的領域に関する研究

〔学会，研究会発表〕

平田健雄，泉 孝英：びまん性間質性肺炎（肺線維症）における末梢血リンパ球の免疫グロブリン産生能および末梢血を循環する免疫グロブリン分泌リンパ球の測定とその意義，厚生省特定疾患・肺線維症調査研究班，昭和54年度班会議（昭55.2）

平田健雄，西川伸一，泉 孝英：びまん性汎細気管支炎における免疫学的動態の研究．Ⅲ．びまん性汎細気管支炎の末梢血中の免疫グロブリン分泌細胞の定量とその意義，第20回日本胸部疾患学会総会（昭55.4.11）

平田健雄，西川伸一，竹内 実，泉 孝英：SpA-SRBC を用いた末梢血中の Ig-Secreting Cell の検出とその意義，第8回日本臨床免疫学会総会（昭55.6.5）

平田健雄，藤村直樹，泉 孝英，大島駿作：過敏性肺臓炎における肺胞洗浄液中のリンパ球のサブセットと機能について，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会（昭55.11.29）

Nishikawa, S., Hirata, T., Izumi, T., Oshima, S.: PPD-induced immunoglobulin production in human peripheral blood lymphocytes, 15 th Joint Meeting Tuberculosis Panel of US-Japan cooperative medical Science Program (1980.10)

〔誌 上 発 表〕

西川伸一，平田健雄，泉 孝英，大島駿作：PPD により誘導されるヒト末梢リンパ球の免疫グロブリン産生機構，昭和54年度日米医学協力研究報告書。

2. 結核の免疫に関する研究

〔学会，研究会発表〕

大山口渥，大島駿作：ツベルクリン反応における Necrose の意義，第45回実験結核研究会総会（昭55.9）

大山口渥，本田和徳，松井祐佐公，木野稔也，小原幸信，大島駿作：ツベルクリン型遅延型皮内反応の発現機構に関する研究，第30回日本アレルギー学会総会（昭55.9）

大山口渥，本田和徳，松井祐佐公，木野稔也，小原幸信，大島駿作：遅延型ツベルクリン反応担当細胞および皮内反応の発現機構に関する研究，第10回日本免疫学会総会（昭55.12）

3. 肺癌に関する研究

〔学会，研究会発表〕

本田和徳，松井祐佐公，門 政男，小原幸信，大島駿作，佐藤篤彦：肺結核を合併した肺癌症例の検討，第55回日本結核病学会総会（昭55.4）

Oshima, S., Izumi, T., Kado, M., Sato, A., Honda, K.: Immunotherapy of lung cancer with schizophyllan, II World Conference on Lung Cancer (1980.6)

門 政男，泉 孝英，大島駿作：肺癌患者における TP-1 の使用経験，胸腺ホルモン研究会（昭55.11.8）

藤村直樹，荻原順一，満安清孝，北市正則，本田和徳，平田健雄，門 政男，大山口渥，木野稔也，泉 孝英，大島駿作，小原幸信：非喫煙者における肺癌の risk factor—癌家族歴および手術侵襲歴との関連性について，第21回日本肺癌学会総会（55.11.4）

泉 孝英，門 政男，大島駿作：肺癌における血中 β_2 -microglobulin 測定の診断学的意義について，第21回日本肺癌学会総会（55.11.5）

泉 孝英，門 政男，大島駿作，長井苑子：Thymostimulin の肺癌症例末梢血リンパ球における E-rosette 形成細胞増加作用，第21回日本肺癌学会総会（55.11.5）

〔誌 上 発 表〕

Izumi, T., Nagai, S., Suginoshta, T.: Serum immunosuppression test as a new tool for immunodiagnosis of lung cancer, *Cancer Research* 40 : 444, 1980.

4. 気管支喘息およびアレルギーに関する研究

〔学 会 発 表〕

木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 中村正義, 乾 修然: 塵肺における I 型アレルギーの関与について, 第20回日本胸部疾患学会総会 (昭55.4, 広島)

木野稔也, 大島駿作: 昆虫による気管支喘息の研究, IX, “蝶・蛾” アレルゲンと “トビケラ” アレルゲンの相互関係, 第30回日本アレルギー学会総会 (昭55.9, 東京)

大島駿作, 木野稔也, 大山口渥, 満安清孝, 岡安大仁, 山口道也, 藤田洋祐, 小関洋男: 昆虫アレルゲンによる気管支喘息と鼻アレルギーに関する研究, 第30回日本アレルギー学会総会 (昭55.9, 東京)

〔誌 上 発 表〕

木野稔也, 橋本圭司, 満安清孝, 松井祐佐公, 大島駿作: 気管支喘息重積発作に対する治療——水溶性ハイドロコーチゾン (サクシゾン) による治療経験, 臨床と研究, 57:915, 昭55.

Kino, T. and Oshima, S.: Reaginic sensitivity to inhalants of moth, butterfly and silkworm in patients with bronchial asthma, *Advances in allergology and immunology*, ed., Pergamon Press, 1980, p. 457.

5. サルコイドーシスに関する研究

〔学会・研究会発表〕

泉 孝英: *Propionibacterium acnes* の Immunomodulation 作用, 文部省特定研究「難病」サルコイドーシスの発症進展機構における *Propionibacterium* の役割に関する基礎的研究班会議 (55.1.31)

泉 孝英: 血清 ACE, Lysozyme の鑑別診断的意義と予後との関連性, 厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班, 昭和54年度第2回班会議 (55.2.8)

泉 孝英: *Propionibacterium* の Immunomodulation 作用, 厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班, 昭和54年度第2回班会議 (55.2.8)

泉 孝英: サルコイドーシスにおける TBLB, 厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班, 昭和54年度第2回班会議 (55.2.9)

泉 孝英: 肺野病変の予後, 厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班, 昭和54年度第2回班会議 (55.2.9)

泉 孝英: *Propionibacterium acnes* の immunomodulation 作用——サルコイドーシスの病因と関連して——, 第6回難病シンポジウム (55.2.15)

西川伸一, 平田健雄, 泉 孝英: サルコイドーシスにおける PPD 反応性 T リンパ球の機能異常に関する研究, 第20回日本胸部疾患学会総会 (55.4.10)

三上理一郎, 泉 孝英, 他: 第6回サルコイドーシス実態調査成績 (1973~1977), 第20回日本胸部疾患学会総会 (55.4.10)

満安清孝, 橋本圭司, 北市正則, 藤村直樹, 本田和徳, 西川伸一, 門 政男, 泉 孝英, 小原幸信, 大島駿作: サルコイドーシスにおける経気管支肺生検の診断学的意義に関する検討, 第20回日本胸部疾患学会総会 (55.4.11)

山本正彦, 泉 孝英他: サルコイドーシスに対するコルチコステロイドの間歇投与の効果 (第2報), 第20回日本胸部疾患学会総会 (55.4.11)

Mikami, R., Izumi, T. et al.: Co-operative clinical evaluation of S-ACE determination in sarcoidosis. 3rd European Conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Disorders, Novi Sad (1980. 5. 22)

Izumi, T.: Serum PFC suppressive activity and course of sarcoidosis. 3rd European conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Disorders, Novi Sad (1980. 5. 22)

泉 孝英, 藤村直樹, 大島駿作: サルコイドーシス診療の進歩, 第32回国立大学附置研究所結核及び胸部疾患談話会 (55.11.22)

北市正則, 岩井和郎, 布施祐輔, 米田良蔵, 浅本 仁, 他: Workshop サルコイドーシスにおける TBLB, TBLB 成績のまとめ, 厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班, 昭和55年度第1回班会議 (昭55.8)

K. Honda, M. Kado, T. Izumi, T. Osaki, Y. Hiraga, K. Iwai, R. Yoneda, M. Washizaki, H. Homma, J. Kabe, H. Osada, H. Okano, T. Furuie, H. Hosoda, Y. Ito, K. Hirasawa, I. Mochizuki, A. Sato, Y. Yamamoto, R. Amitani, R. Mikami, N. Kurihara, T. Tachibana, S. Hitomi, N. Ochi, F. Kitatani, J. Nakai, M. Yamakido, K. Shima, S. Miyagi: TBLB as a diagnostic procedure for Sarcoidosis in Japan. —A cooperative study in twenty-four hospitals—, 2nd World Congress for Bronchology, (昭55. 6. Düsseldorf)

藤村直樹, 竹内 実, 満安清孝, 本田和徳, 平田健雄, 西川伸一, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作: 気管支肺胞洗浄細胞 (broncho-alveolar lavage cell) を用いた肺疾患の免疫学的研究 (第1報) サルコイドーシス, 肺癌, 塵肺症例における BAL-Cell の細胞分画および免疫グロブリン産生能について, 第30回日本アレルギー学会総会 (昭55.9)

〔誌 上 発 表〕

泉 孝英: サルコイドーシス患者血清によるマウスにおける Suppressor cell の誘導, 昭和53年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班研究業績, p. 106, 昭54年3月

平賀洋明, 泉 孝英, 他: サルコイドーシスにおけるいわゆる肺線維症の X 線学的検討 (第1報), 昭和53年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班研究業績, p. 145, 昭54年3月

北郷 修, 泉 孝英, 他: スイス抗原, サルコイドーシス研究協議会クベイム抗原製造番号 41-A によるクベイム・テストの成績, 昭和53年度厚生省特定疾患サイコイドーシス調査研究班研究業績, p. 165, 昭54年3月

山本正彦, 泉 孝英, 他: サルコイドーシスに対するコルチコステロイド治療の共同研究, 昭和53年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班研究業績, p. 229, 昭54年3月

立花暉夫, 泉 孝英, 他: サルコイドーシス急性発症症例の予後, 昭和53年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班研究業績, p. 258, 昭54年3月

Izumi, T., Suginoshta, T.: Plaque forming cell response suppressive factor in sarcoidosis serum. Eight International Conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Diseases p. 449. Alpha Omega Publishing Limited. Cardiff, 1980.

Tachibana, T., Izumi, T., et al.: Re-evaluation of the prognostic significance of sarcoidosis of acute onset. Eight International Conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Diseases p. 551. Alpha Omega Publishing Limited. Cardiff, 1980.

Hongo, O., Izumi, T., et al.: Analysis of results of the Kveim tests using Swiss Kveim antigen. Eight International Conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Diseases. p. 760. Alpha Omega Publishing Limited. Cardiff, 1980.

泉 孝英: サルコイドーシス, 臨床科学, 16:400, 1980.

泉 孝英: Complicated sarcoidosis の臨床所見と胸部X線所見, 第22回肺線維症研究会討議録, p. 32, 昭55年11月

6. 免疫薬理学的研究領域に関する研究

〔学会・研究会発表〕

竹内 実, 大島駿作, 泉 孝英: BCG, Propionibacterium acnes の Immunomodulation 作用, 第44回実験結核研究会 (55.4.6)

泉 孝英：胸腺，シンポジウム「ホルモンの免疫，造血系におよぼす影響について」第33回近畿血液学会地方会（55.5.17）

Izumi, T., Takeuchi, M., Nagai, S., Iwaki, K.: Immunosuppressive effects of antimicrobial drugs on the murine immune response. First International Conference on Immunopharmacology. Brighton (1980. 7. 31)

Izumi, T.: Lentinan inhibition of suppressor cell activity in the murine immune reaction. International Symposium "Manipulation of host defense mechanisms". Niigata (1980. 10. 4)

〔誌 上 発 表〕

泉 孝英，藤村直樹：Propionibacterium acnes の Immunomodulation 作用に関する研究（第2報），文部省特定研究「難病」難病の発症機構に関する基礎的研究，昭和54年度研究業績，p. 259，昭55年3月

7. 肺線維症，間質性肺炎に関する研究

〔学会・研究会発表〕

泉 孝英，北谷文彦，三上理一郎：近畿地区における「びまん性肺疾患」に関する調査研究状況，厚生省特定疾患肺線維症研究班，昭和54年度班会議（55.1.29）

泉 孝英：びまん性肺疾患における血清 ACE，血清 lysozyme 値，厚生省特定疾患肺線維症研究班昭和54年度班会議（55.1.30）

平田健雄，泉 孝英：びまん性間質性肺炎における末梢血リンパ球の免疫グロブリン産生能および免疫グロブリン分泌リンパ球の測定に関する検討，厚生省特定疾患肺線維症研究班昭和54年度班会議（55.1.30）

北市正則，平田健雄，泉 孝英：原因不明のびまん性間質性肺炎における末梢気腔内大細胞の鉄染色所見について，第20回日本胸部疾患学会総会（55.4.10）

〔誌 上 発 表〕

Ochi, T., Izumi, T., et al.: A new type of hypersensitivity pneumonitis in Japan. Eight International Conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Diseases p. 705, Alpha Omega Publishing Limited, Cardiff, 1980.

8. 産業性肺疾患に関する研究

〔学 会 発 表〕

泉 孝英：ベリリウム肺，シンポジウム I，職業性呼吸器疾患—現在と将来の問題点—，第20回日本胸部疾患学会総会（55.4.10）

〔誌 上 発 表〕

泉 孝英：慢性ベリリウム肺10症例の臨床所見，昭和53年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班研究業績，p. 319，昭55年3月

Nishikawa, S., Hirata, T., Kitaichi, M., Izumi, T.: Three year prospective study of Mantoux reactions in factory workers exposed to beryllium oxide. Eight International Conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Diseases. p. 722. Alpha Omega Publishing Limited. Cardiff, 1980.

泉 孝英：職業性肺疾患の免疫学，クリニカ，7:909，1980，

泉 孝英：慢性ベリリウム肺，日胸疾会誌，18:19，1980，

9. その他の肺および呼吸器疾患についての研究

〔学 会 発 表〕

満安清孝，大島駿作，福岡謙助：わが国における α_1 アンチトリプシン表現型の分布と喫煙の α_1 アンチトリプ

シン濃度に及ぼす影響について，第20回日本胸部疾患学会総会（昭55.4）

松井祐佐公，満安清孝，北市正則，本田和徳，藤村直樹，平田健雄，西川伸一，大山口渥，門 政男，木野稔也，泉 孝英，小原幸信，大島駿作：Lower Lung Field Tuberculosis について，第55回日本結核病学会総会（昭55.4）

平田健雄，西川伸一，泉 孝英：び慢性汎細気管支炎における免疫学的動態の研究，Ⅲ，び慢性汎細気管支炎の末梢血中の免疫グロブリン分泌細胞の定量とその意義，第20回日本胸部疾患学会総会（55.4.11）

〔誌 上 発 表〕

大島駿作：免疫不全症候群と肺感染症，今日の治療指針，医学書院（東京），p. 198，1980.

大島駿作：肺炎，治療，62:268，1980.

門 政男：呼吸器の感染防御機構に関する研究，第2篇 呼吸器感染防御因子としての Lysozyme に関する研究，京大胸部研紀要，13:32，1980.

10. 症 例 報 告

〔学会・研究会発表〕

北市正則，平田健雄，本田和徳，藤村直樹，泉 孝英，小原幸信，大島駿作，須藤千鶴子，中屋敷博，古田睦広：原因不明のびまん性間質性線維化肺炎の急性増悪を伴った腺表皮型肺癌の1剖検例，第32回肺癌学会関西支部会（昭55.2）

北市正則，満安清孝，藤村直樹，泉 孝英，小原幸信，大島駿作，加藤弘文，清水慶彦，古田睦広：著明な脾転移が認められた肺内重複癌の1剖検例，第32回肺癌学会関西支部会（昭55.2）

北市正則，平田健雄，小原幸信，大島駿作，泉 孝英，清水慶彦：びまん性肺疾患92例，第8回びまん性肺疾患研究会（昭55.2）

竹内 覚，町野満夫，山口 希，南出 進，北市正則，泉 孝英：胸痛で受診したびまん性肺疾患の1例，第8回びまん性肺疾患研究会（昭55.2）

北市正則，門 政男，泉 孝英，大島駿作，青木 稔，加藤弘文：瘤状陰影で発見された Sclerosing Hemangioma of the Lung の1例，第101回日本内科学会近畿地方会（昭55.3）

浅本 仁，古田睦広，北市正則：Steel mouse の胸腺，その形態と機能，第69回日本病理学会総会（昭55.6）

中井栄一，鈴木康弘，北市正則，徐 航霽，浅本 仁，古田睦広：フリーズフラクチャー法による正常ラット，マウスの肺表面活性物質の観察，第69回日本病理学会総会（昭55.6）

西山秀樹，前川暢夫，北市正則，細川昌則：急性感染症を合併し，進行性破壊性肺病変を呈した1例，第9回びまん性肺疾患研究会（昭55.7）

牛田伸一，坂東憲司，西山秀樹，倉沢卓也，前川暢夫，北市正則：Guillain-Barré-Strohl 症候群に併発したと思われる DPB の1例，第10回びまん性肺疾患研究会（昭55.10）

本田和徳，藤村直樹，満安清孝，北市正則，門 政男，大島駿作：原発性肺癌を疑った上顎癌気管支粘膜下転移（Endobronchial metastasis）の1例，第32回肺癌学会関西支部会（昭55.2）

本田和徳，藤村直樹，満安清孝，北市正則，平田健雄，松井祐佐公，門 政男，大島駿作：治療中腰椎硬膜外転移を認め，癌性髄膜炎を来した肺小細胞癌の1例，第33回肺癌学会関西支部会（昭55.8）

本田和徳，満安清孝，藤村直樹，平田健雄，門 政男，泉 孝英，大島駿作，北市正則，黒住真史：ステロイド治療中の肺癌症例に発生した Pneumocystis carinii 肺炎の3例，第16回日本胸部疾患学会近畿地方会（昭55.11）

牛田伸一，坂東憲司，西山秀樹，倉沢卓也，前川暢夫，北市正則：最近経験した DPB と思われる症例，第10回びまん性肺疾患研究会（昭55.10）

沢野哲重，早川道雄，堺 幹太，川上一郎，浅本 仁，古田睦広，北市正則，泉 孝英：TBLB でびまん性細気管支炎と考えられた1例，第10回びまん性肺疾患研究会（昭55.10）

越智規夫, 泉 孝英, 北市正則: *H. influenzae* に対する抗生物質治療とメドロキシシ 2T/日 の長期服用により良好な経過をとりつつある DPB の 1 例, 第10回びまん性肺疾患研究会 (昭55.10)

竹内 覚, 町野満夫, 山口 希, 南出 進, 北市正則, 泉 孝英: 自然気胸を反復した肺 Histiocytosis X の 1 例, 第15回日本胸部疾患学会近畿地方会 (昭55.11)

折田雄一, 大道重夫, 浅本 仁, 古田眺広, 北市正則: Eosinophilic granuloma of the lung の 1 例, 第15回日本胸部疾患学会近畿地方会 (昭55.11)

北市正則, 平田健雄, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作, 清水慶彦, 小原幸信: 肺胞蛋白症の 3 例, 第15回日本胸部疾患学会近畿地方会 (昭55.11)

〔誌 上 発 表〕

北市正則, 平田健雄, 泉 孝英: 腺表皮型肺癌の合併をみた UIP の 1 剖検例, 第21回肺線維症研究会討議録 (昭55.9)

古川福実, 本田和徳: 臍部基底細胞癌と癌性胸膜炎の合併例, 皮膚科紀要, 75:37, 1980.

11. そ の 他

〔分 担 執 筆〕

泉 孝英: 織田敏次他編, 内科セミナーRES 3, 閉塞性肺疾患, 間質性肺炎, 肺線維症, p. 219~241, 永井書店, 大阪, 昭55.

泉 孝英, 満安清孝, 森下玲児: α_1 -アンチトリプシン, 日本臨床1980年春季増刊, 血液, 尿, 化学検査, 816, 昭55.

泉 孝英: 結合組織病 (膠原病) における胸郭内病変, 今日の治療指針, 1980, p. 214, 医学書院.

泉 孝英: 阿部正和他編, 新臨床内科学, 第3版, サルコイドーシス, p. 114, 1980.

〔講 演 会〕

大島駿作: 呼吸器の感染防御機構, 学術講演会 (昭55.3)

大島駿作: 呼吸器疾患における最近の話題, 浜松医大 (昭55.4)

大島駿作: TBLB による肺疾患の診断, 北野病院 (昭55.11)

泉 孝英: 細胞レベルでみた免疫機構, 第9回実地医家のための臨床アレルギー講習会, 日本アレルギー協会中部支部主催 (55.2.2)

泉 孝英: 慢性ペリリウム肺, 第16回京阪神呼吸器疾患談話会 (55.3.8)

泉 孝英: サルコイドーシス—その周辺と鑑別, 島田市立病院医師研修会 (55.10.16)

木野稔也: 昆虫による気管支喘息, 京大胸部研学術講演会 (昭55.1.26)

木野稔也: 気管支喘息の診断と治療, 京都府医師会学術講演会 (昭55.3.21)

北市正則: 肺腫瘍の病理, 国立京都病院, 水曜講座 (昭55.9)

北市正則: 肺癌の病理組織像, 浜松医科大学 (昭55.12)

満安清孝: サルコイドーシスにおける TBLB について, 内視鏡談話会 (昭55.7)

満安清孝: サルコイドーシスの内視鏡所見について, サルコイドーシス協議会 (昭55.9)

藤村直樹, 黒住真史, 竹内 実, 泉 孝英: 気管支肺胞洗浄の細胞成分について, サルコイドーシスワーク・ショップ, (昭55.8)

胸 部 外 科 学 部 門

〔学 会 発 表〕

1. 腫 瘍

伊藤元彦：胸腺関連腫瘍の分類と治療——ヌードマウス移植腫瘍の所見を中心に——，胸部研学術講演会（55.1）

橋本圭司，立石昭三他：化学療法が奏効した子宮平滑筋肉腫肺転移例について，第32回肺癌学会関西支部会（55.2）

前里和夫，高橋憲太郎，カレッド・レシャード，人見滋樹，趙 輝栄：胸部X線上正常像を呈した肺門部早期癌の1症例，第32回肺癌学会関西支部会（55.2）

岡本交二，宮本 覚，西内 素，中村隆澄，山家 武，立道 清，庄村東洋，吉栖正之：肺癌患者におけるCEA—特に術前術後における経時的測定の臨床的意義と限界，第32回肺癌学会関西支部会（55.2）

北野司久，カレッド・レシャード，光岡明夫：化学療法の効果を高める試み(1) in vivo 感受性テストを中心に，第32回肺癌学会関西支部会（55.2）

伊藤元彦，青木 稔，玉田二郎，和田洋己，清水慶彦，寺松 孝：肺癌切除例における長期維持化学療法の併用効果，第32回肺癌学会関西支部会（55.2）

カレッド・レシャード，光岡明夫，北野司久：化学療法の効果を高める試み (2) 血中活性化物質を指標にして，第32回肺癌学会関西支部会（55.2）

青木 稔，玉田二郎，伊藤元彦，寺松 孝：ヒト気管支のヌードマウス移植とベンツピレン投与による上皮の変化，第32回肺癌学会関西支部会（55.2）

瀧 俊彦，小鯖 覚，宮本好博，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：開胸により初めて診断しえた小塊状陰影，同上学会（55.2）

小鯖 覚，船津武志，二宮和子，宮本好博，瀧 俊彦，松原義人，畠中陸郎，池田貞雄：癌性胸膜炎の治療，胸水の Infusion の試み，同上学会（55.2）

宮本好博，二宮和子，池田貞雄，小鯖 覚，松原義人，畠中陸郎，船津武志，瀧 俊彦：肺癌の免疫化学療法，同上学会（55.2）

二宮和子，宮本好博，瀧 俊彦，松原義人，小鯖 覚，畠中陸郎，船津武志，池田貞雄：肺癌の多剤併用化学療法 (FUMCET)，同上学会（55.2）

玉田二郎，和田洋己，伊藤元彦，寺松 孝：肺癌を疑い肺葉切除を施行した肺結核の5例，第55回日本結核病学会（55.4）

伊藤元彦，高嶋義光，青木 稔，玉田二郎，和田洋己，寺松 孝：縦隔 germ cell tumor 由来ヌードマウス移植株からみた germ cell tumor の分類に関する考察，第20回日本胸部疾患学会総会（55.4）

高橋憲太郎，前里和夫，カレッド・レシャード，人見滋樹，鈴木庸之：縦隔リンパ管腫の1切除例，第127回近畿外科学会（55.5）

志熊 肅，岡田英彦，倉田昌彦：両側乳癌手術例の経験，同上学会（55.5）

金城 明，青木 稔，渡部 智，玉田二郎，加藤弘文，和田洋己，清水慶彦，伊藤元彦，寺松 孝，牧本一男，岸本誠司：胸部へ進展した甲状腺癌の外科的治療，同上学会（55.5）

カレッド・レシャード，光岡明夫，北野司久：小児の縦隔腫瘍，日本胸部外科学会関西地方会（55.6）

小鯖 覚他7名：縦隔カルチノイドの2例，同上学会（55.6）

前里和夫，高橋憲太郎，人見滋樹，鈴木庸之，奥田 正：縦隔囊腫の6切除例，第23回日本胸部外科学会関西地方会（55.6）

中村隆澄，平田 昭，竹内義広，福山 守，岡本交二，宮本 覚，西内 泰，秦 紘，立道 清，庄村東洋，吉栖正之：高齢者肺癌症例（70才以上）に対する外科治療の検討，同上学会（55.6）

平田 昭，宮本 覚，立道 清，庄村東洋，吉栖正之，山田栄一，中井 準，内田博也：気管支カルチノイド

腫瘍と悪性胸腺腫が合併した1症例, 第17回兵庫県肺癌懇話会 (55.6)

中納誠也, 小林君美, 井上律子, 山中 晃, 住友伸一: 胸腺囊腫の4例, 第54回日本結核病学会東海地方会, 第37回日本胸部疾患学会東海地方会 (55.6)

Ito, M., Aoki, M., Tamada, J. and Teramatsu, T.: Epithelial changes of human bronchi transplanted in nude mice, 2nd World Conference on Lung Cancer (55.6)

Okada, H., Kurata, M., et al.: Bronchofiberscopic Examination for Screening of the Malignant Lung Tumors, 2nd World Congress for Bronchology.

Hitomi, S., Teramatsu, T., Funatsu, T.: Mediastinoscopic and Thorascopic Findings in Lung Cancer, 2nd World Conference on Lung Cancer (55.6)

Kitano, M., Mitsuoka, A., Reshad, K., and Teramatsu, T.: Study of in vivo sensitivity test of anti-cancer drugs, 2nd World Conference on Lung Cancer (55.6)

Matsubara, Y., Funatsu, T., Taki, T., Kuwabara, M. and Ikeda, S.: Tumor-specific antibody in the regional lymphonodes of patients with lung cancer, 2nd World Conference of Lung Cancer (55.6)

山中 晃, 中納誠也, 井上律子, 小林君美: 結腸癌, 乳癌の既往を有する肺癌の1症例, 第34回中部肺癌学会 (55.6)

山中 晃, 住友伸一, 中納誠也, 井上律子, 小林君美: Pancoast 型腫瘍の2例, 第36回中部肺癌学会 (55.6)

光岡明夫, カレッド・レシャード, 北野司久: 高 CEA 値より診断できた肺癌症例の検討, 奈良県呼吸器疾患研究会 (55.7)

北野司久, カレッド・レシャード, 光岡明夫: 当科における肺癌 275 例の手術成績, 奈良県呼吸器疾患研究会 (55.7)

金城 明, 玉田二郎, 青木 稔, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 巨大ブラ内に生じた早期肺癌の一例, 第33回肺癌学会関西支部会 (55.8)

玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝: 気管支内腔にポリープ状に進展した乳頭状腺癌の1例, 第33回肺癌学会関西支部会 (55.8)

光岡明夫, カレッド・レシャード, 北野司久: 肺転移を伴った悪性血管外皮細胞腫に対する combinid therapy の検討, 同上学会 (55.8)

カレッド・レシャード, 光岡明夫, 北野司久: ヌードマウス移植人肺癌に対する制癌剤感受性テスト——悪性血管外皮細胞腫を標的細胞として——, 同上学会 (55.8)

飯田恒二, 岡田英彦, 倉田昌彦, 室本 仁, 藤田正憲, 本田裕宏: 縦隔, 胸腺扁平上皮癌の2症例, 同上学会 (55.8)

加藤弘文, 青木 稔, 金城 明, 玉田二郎, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺癌における気管支形成術の経験, 同上学会 (55.8)

前里和夫, 高橋憲太郎, 人見滋樹, 石川治二, 畠山勝行, 佐野耕三: 肺癌骨転移に対する観血的治療例の検討, 第33回肺癌学会関西支部会 (55.8)

人見滋樹, 前里和夫, 高橋憲太郎, カレッド・レシャード, 永田 格: 甲状腺癌の肺転移巣の RI 治療後の切除例, 同上学会 (55.8)

瀧 俊彦, 小鯖 覚, 宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: PAP 法による肺癌組織内 CEA の検討, 同上学会 (55.8)

小鯖 覚, 宮本好博, 瀧 俊彦, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌における sarcoid reaction, 同上学会 (55.8)

宮本好博, 小鯖 覚, 瀧 俊彦, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: Nevilleis prosthesis による気管分岐部再建, 同上学会 (55.8)

北野司久: 肺癌に対する In vivo 感受性テスト, 厚生省がん研究下里班班会議 (55.9)

伊藤元彦: 肺巨細胞癌切除例の臨床病理学的検討, 厚生省がん研究服部班班会議 (55.9)

伊藤元彦, 和田洋巳, 高嶋義光, 玉田二郎, 寺松 孝: 胸腺関連腫瘍の分類の体系化について, 第33回日本胸部外科学総会 (55.9)

北野司久, カレッド・レシャード, 光岡明夫: 手術を中心とした肺癌の集約治療の研究, 第33回日本胸部外科学会総会 (55.9)

北野司久, カレッド・レシャード, 光岡明夫: 癌化学療法の効果をもつて——血中活性化物質を指標にして, 日本癌治療学会総会 (55.9)

松原義人, 池田貞雄, 小鯖 覚, 宮本好博, 瀧 俊彦, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志: 肺癌における ACTH の診断学的意義, 第18回日本癌治療学会 (55.9)

カレッド・レシャード, 光岡明夫, 北野司久: ヌードマウス 移植人肺癌を用いた 実験的 化学療法 (第3報), 日本癌治療学会 (55.9)

北野司久, カレッド・レシャード, 光岡明夫: 肺癌における Carcino Embryonic Antigen の研究, 同上学会 (55.9)

加藤弘文, 水野 浩, 神頭 徹, 青木 稔, 金城 明, 渡部 智, 玉田二郎, 和田洋己, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 高齢者肺癌における肺切除術の問題点, 第33回日本胸部外科学会総会 (55.9)

佐藤新太郎, 安淵義男: 肺癌と肺結核の鑑別診断について, 国立病院国立療養所総合医学会 (55.10)

山中晃, 住友伸一, 中納誠也, 井上律子, 小林君美: 神経性縦隔腫瘍12例の検討, 第54回日本結核病学会東海地方会 (55.6)

伊藤忠弘, 秋山文弥, 平岩卓根, 山田和範, 田中 暁: 肺に悪性線維組織球腫と扁平上皮癌が合併した1例, 第19回日本臨床細胞学会秋期大会 (55.11)

北野司久, カレッド・レシャード: Nu-マウスを用いる 制癌剤感受性検査法 (第4報), 制癌剤適応研究会 (55.11)

清水慶彦, 青木 稔, 金城 明, 玉田二郎, 渡部 智, 加藤弘文, 和田洋己, 伊藤元彦, 寺松 孝, 岸本誠司, 牧本一男: 胸部気管に浸潤をきたした甲状腺癌の治療経験, 第32回日本気管食道科学会総会 (55.11)

小鯖 覚, 宮本好博, 瀧 俊彦, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌における sarcoid reaction, 第21回日本肺癌学会総会 (55.11)

二宮和子, 松原義人, 小鯖 覚, 宮本好博, 桑原正喜, 瀧 俊彦, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌の多剤併用化学療法 (FUMCET), 同上学会 (55.11)

瀧 俊彦, 小鯖 覚, 宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌組織内 CEA と血清 CEA, 第21回日本肺癌学会総会 (55.11)

カレッド・レシャード, 光岡明夫, 北野司久, 高橋憲太郎, 前里和夫, 人見滋樹: 抗癌剤の胸膜透過性の検討, 同上学会 (55.11)

人見滋樹, 前里和夫, 高橋憲太郎, 永田 格: 甲状腺癌の肺転移, 第21回日本肺癌学会総会 (55.11)

青木 稔, 玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝: ベンツピレン投与によるヌードマウス移植ヒト気管支の発癌実験, 同上学会 (55.11)

玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺腺癌の産生粘液からみた亜型分類, 同上学会 (55.11)

北野司久, カレッド・レシャード, 光岡明夫: 肺癌に対する In vivo 制癌剤感受性テストの研究, 同上学会 (55.11)

北野司久, カレッド・レシャード, 光岡明夫: 肺癌症例に対する cyclophosphamide 療法 (2) inducer の意義について, 第21回日本肺癌学会 (55.11)

倉田昌彦, 岡田英彦, 飯田恒二, 藤田正憲, 室本 仁, 本田裕宏: 上大静脈症候群を呈した肺癌18例の検討, 同上学会 (55.11)

伊藤元彦, 高嶋義光, 玉田二郎, 寺松 孝: ヒト縦隔 germ cell tumor 由来ヌードマウス移植株における teratocarcinoma および mature teratoma の出現, 第39回日本癌学会総会 (55.11)

北野司久, カレッド・レシャード, 光岡明夫: Cyclophosphamide に対する Nu-マウスの宿主反応, 同上学会 (55.11)

高嶋義光, 伊藤元彦, 他: Human teratocarcinoma の試験管内培養株 (HMT-cells) の in vitro およびヌードマウスへの房し移植における多分化能の研究, 同上学会 (55.11)

足達敏博, 高嶋義光, 伊藤元彦, 他: Human Teratocarcinoma 由来培養細胞株 (HMT-cells) の樹立と germ cells の壁着伸展性誘導蛋白質 (fibronectin) 産生細胞への分化について, 第39回日本癌学会総会 (55.11)

伊藤元彦: ヌードマウス移植によるヒト・テラトーマの研究, 第39回日本癌学会総会ラウンドテーブルディスカッション, ヌードマウス移植人癌の形態と機能, 指定発言 (55.11)

池田貞雄, 桑原正喜, 瀧 俊彦, 松原義人, 伊藤元彦, 寺松 孝: 腫瘍特異抗原による肺癌患者の皮内反応, 第39回日本癌学会総会 (55.11)

松原義人, 桑原正喜, 瀧 俊彦, 池田貞雄: 肺癌患者の領域リンパ節における腫瘍特異抗体の検索 (第2報), 同上学会

玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝: 縦隔 germ cell tumor 3例とそのヌードマウス継代移植における AFP, HCG 産生, 第12回 Functioning Tumor 研究会 (55.11)

住友伸一, 中納誠也, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美: 高齢者肺癌の外科的治療とその問題点, 第37回中部肺癌学会 (55.11)

岡田英彦, 飯田恒二, 倉田昌彦, 本田裕宏: 肺過誤腫 6例の経験, 第128回近畿外科学会 (55.11)

水野 浩, カレッド・レシャード, 光岡明夫, 北野司久: 肺癌の手術後の化学療法におけるわれわれのルーチン薬剤選択法, 同上学会 (55.11)

玉田二郎, 金城 明, 瀧 俊彦, 渡部 智, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 気管支異型カルチノイドの3症例, 第16回日本胸部疾患学会近畿地方会 (55.11)

高橋憲太郎, 前里和夫, 人見滋樹: Carcinoma in situ の気管支鏡所見, 第14回近畿気管支懇話会 (55.11)

青木 稔, 五十部潤, 和田洋己, 伊藤元彦, 寺松 孝: Thymolipoma の1例, 第16回日本胸部疾患学会近畿地方会 (55.11)

2. 結 核

山本博昭, 松谷之義, 松本守海: 結核性空洞の外科的療法——とくに空洞形成術について, 第55回日本結核病学会要望課題「結核性空洞」(55.4)

中納誠也, 小林君美, 井上律子, 山中 晃: 最近7年間の膿胸の治療に対する検討——, 第53回日本結核病学会東海地方学会, 第35回日本胸部疾患学会東海地方会 (55.6)

3. 胸 腺・免 疫

倉田昌彦, 岡田英彦, 志熊 肅, 今井輝国, 本田裕宏, 山崎正博, 山辺博彦, 高橋 豊: 胸腺・胸腺腫摘出後に胸腺腫再発・後天性赤芽球癆を併発した重症筋無力症の1剖検例——, 第23回日本胸部外科学会関西地方会 (55.6)

4. 人 工 材 料

T. Teramatsu, Y. Shimizu, Y. Miyamoto, T. Hino, U. Shibata and S. Okamura: New biomaterials for reconstructive surgery of tracheobroncheal airway tract, 1st World Biomaterials Congress, (55.8)

渡部 智, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 村地孝, 日野常稔: ポリペプチド系抗生物質「ポリミキシンB」を固定化した抗菌性医用材料, 第2回日本バイオマテリアル学会大会 (55.9)

小鯖 寛, 他7名: 人工気管による気管分岐部再建——, 日本胸部外科学会総会 (55.9)

加藤弘文, 水野 浩, 田村康一, 渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝: アルミナセラミックスによる人工胸骨, 人工肋骨の試み——基礎的検討——, 第18回日本人工臓器学会大会 (55.11)

渡部 智, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 日野常稔: 卵白リゾチーム固定化による抗菌性医用材料——特に固定化異種蛋白としての組織内反応について——, 第18回日本人工臓器学会大会 (55.11)

加藤弘文, 水野浩一, 田村康一, 渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝: アルミナセラミックスによる人工胸骨・人工肋骨——基礎的研究, 1980年度整形外科セラミックインプラントコロキウム (55.12)

5. 心・血 管

秋山文彌, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根: 連合弁膜症の手術治療における大動脈弁形成術の意義と成績, 第10回日本心臓血管外科学会 (55.2)

宮本 覚, 福山 守, 竹内義広, 西内 素, 岡本交二, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 乳児開心術の問題点——補助手段——, 日本心臓血管外科学会第10回学術総会 (55.2)

山家 武, 福山 守, 竹内義広, 岡本交二, 宮本 覚, 西岡 素, 中村隆澄, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 大動脈弁僧帽弁弁膜症の手術適応と成績, 同上学会 (55.2)

馬場国蔵, 深谷 隆, 富田安彦, 吉栖正之: 小児期各種心疾患における左室拡張期機能(第5報)——心房ペーシングによる VSD と PS での拡張期機能の動き——, 日本循環器学会 (55.3)

深谷 隆, 富田安彦, 馬場国蔵, 山岡誠二, 高木義博, 奥町富久丸, 柳原皓二, 加藤 洋, 大脇 嶺, 吉川純一, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 静脈洞弁遺残の超音波像, 第20回臨床心音図研究会

篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文彌: 輪状絞扼型収縮, 心腹炎の2手術例, 第115回静岡県医師会集談会 (55.3)

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 千原幸司, 平岩卓根, 秋山文彌: 大血管転位を伴った三尖弁閉鎖症に対するフォンタン手術の1治療例, 第115回静岡県外科医師会集談会 (55.3)

庄村東洋, 竹内義広, 福山 守, 平田 昭, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 吉栖正之: 僧帽弁置換術後に合併する左室後壁破裂に対する成因の検討ならびに予防対策, 第80回日本外科学会総会 (55.4)

馬場國蔵, 深谷 隆, 富田安彦, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 複雑心奇形の各種短絡術後遠隔期における肺動脈圧とその血流量, 第49回日本循環器学会近畿地方会(55.6)

竹内義広, 福山 守, 平田 昭, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 秦 紘, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之, 波多 信, 石原亨介, 黒田 昭, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 左腕頭静脈～右心房間バイパス術を行った上大静脈症候群の一例, 第17回兵庫県肺癌懇話会 (55.6)

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文彌: 三尖症に対する右心バイパス手術の経験, 第23回日本胸部外科学会関西地方会 (55.6)

篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩 卓, 秋山文彌: 収縮性心膜炎の手術上の問題点, 第23回日本胸部外科学会関西地方会 (55.6)

秋山文彌, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根: Apico-Aortic Bypass 手術の経験, 第23回胸部外科学会関西地方会 (55.6)

庄村東洋, 竹内義広, 平田 昭, 福山 守, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 吉栖正之: 左室瘤切除術の遠隔成績, 第23回日本胸部外科学会 (55.6)

庄村東洋: 心弁膜症の外科, 同上学会 (55.6)

岡本交二, 平田 昭, 竹内義広, 福山 守, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 秦 紘, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 収縮性心膜炎の外科治療, 第23回日本胸部外科学会関西地方会 (55.6)

宮本 覚, 平田 昭, 竹内義広, 岡本交二, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: ASD+MR+PH 手術例の検討, 同上学会 (同日)

立道 清, 平田 昭, 竹内義広, 福山 守, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之: 大動脈弁上狭窄の2手術症例, 同上学会 (同日)

Tatemichi, K.: Revascularization of the myocardium, XXII International Biennial Congress International Colledge of Surgeons (55.6)

Yoshizumi, M., Tatemichi, K., Baba, K.: A new valvuloseptoplasty for complete form persistent common atrioventricular canal, XXII International Biennial Congress International Colledge of Surgeons (55.6)

Tatemichi, K., Yoshizumi, M.: Surgical treatment of terminal vein valve anomaly, XXII International Biennial Congress International Colledge of Surgeons (55.6)

Tatemichi, K.: Dialogue with experts, heart surgery, XXII International Biennial Congress International Colledge of Surgery (55.6)

西内 素, 竹内義広, 平田 昭, 福山 守, 岡本交二, 宮本 覚, 中村隆澄, 秦 紘, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: ASD を看過していたため術後管理に難渋した肺動脈狭窄の1例, 第1回近畿心臓外科研究会 (55.7)

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文彌: 急性期心筋硬塞の外科的治療, 第9回日本冠動脈外科研究会 (55.9)

篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文彌: シンポジウム“ジャンプクラフトの臨床” ジャンプクラフトを用いた手術例の検討, 第33回日本胸部外科学会総会 (55.9)

千原幸司, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文彌: 虚血性心疾患に対する緊急手術療法の検討, 第33回日本胸部外科学会総会 (55.9)

宮本 覚, 竹内義広, 平田 昭, 福山 守, 岡本交二, 西内 素, 中村隆澄, 秦 紘, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 先天性大動脈狭窄の外科治療, 第33回日本胸部外科学会総会 (55.9)

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文彌: CRD-401 持続点滴静注法による A-C バイパス手術前後の冠動脈攣縮制御の検討, 第21回日本脈管学会総会 (55.10)

小西 豊, 黒木輝夫, 宮本 覚, 立道 清, 吉栖正之, 高田秀彰, 田村 清: Buerger 病に対する外科的治療の検討, 第21回日本脈管学会総会 (55.11)

立道 清, 竹内義広, 平田 昭, 福山 守, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 秦 紘, 庄村東洋, 吉栖正之: 腹部大動脈瘤手術での末梢側処理, 第21回日本脈管学会総会 (55.11)

平田 昭, 竹内義広, 福山 守, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 左房瘤の1治験例, 第127回近畿外科学会 (55.5)

竹内義広, 福山 守, 平田 昭, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 僧帽弁置換を加えた Bentall 手術の1症例, 同上学会 (55.5)

立道 清, 竹内義広, 平田 昭, 福山 守, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 秦 紘, 庄村東洋, 吉栖正之: 大動脈弁置換を伴った上行性大動脈瘤の手術——その合併症について, 同上学会 (55.5)

秦 紘, 福山 守, 平田 昭, 竹内義広, 岡村交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 遠隔成績からみた心室瘤の外科治療, 同上学会 (55.5)

島本光臣, 秋山文彌: シンポジウム虚血性心疾患の外科治療, 第42回日本臨床外科学会総会 (55.11)

馬場国蔵, 渋谷 隆, 富田安彦, 岡本交二, 宮本隆澄, 秦 紘, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 複雑心奇形の短絡手術遠隔期における至適短絡とは (第2報), 第50回日本循環器学会近畿地方会 (55.12)

福山 守, 竹内義広, 平田 昭, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 秦 紘, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: Discrete 型大動脈弁下部狭窄症の2治験例, 同上学会 (55.12)

岡本交二, 平田 昭, 竹内義広, 福山 守, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 秦 紘, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 緊急人工弁置換術の適応と問題点, 同上学会 (55.12)

6. 一般胸部疾患

立石昭三: Tracheo-innominate artery fistula の1例について, 第1回近畿集中治療談話会 (55.1)

伊藤元彦: 気管・気管支腺の免疫組織学, 気道病態研究会 (55.2)

人見滋樹, 前里和夫, 立花輝夫: サルコイドーシスの内視鏡所見, 厚生省サルコイドーシス研究会 (55.2)

加藤弘文, 神頭 徹, 高橋憲太郎, 青木 稔, 渡辺 智, 金城 明, 玉田二郎, 和田洋己, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 漏斗胸手術の外科的検討 (過去32例について手術術式を中心に), 第80回日本外科学会総会 (55.3)

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文彌: 胸部 CT 像を用いた漏斗胸変形の指数化表現の試み, 第80回日本外科学会総会 (55.4)

永見義隆, 志熊 肅, 岡田英彦, 田辺正也: 漏斗胸の CT 所見, 特に胸骨偏位と胸部の変形について, 第80回日本外科学会総会 (55.4)

カレット・レシャード, 前里和夫, 人見滋樹: 胸膜の抗生剤の透過性, 日本胸部疾患学会総会 (55.4)

秋山文彌, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根: “映画” 漏斗胸に対する腹直筋有茎性胸骨翻転術, 第80回日本外科学会総会 (55.4)

カレット・レシャード, 前里和夫, 人見滋樹, 立花輝夫: BHL を呈した1次性全身性アスペルギローシスの1症例, 第20回日本胸部疾患学会総会 (55.4)

秋山文彌, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根: ポーランド症候群7例の検討, 第20回日本胸部疾患学会総会 (55.4)

小鯖 覚, 宮本好博, 瀧 俊彦, 宮本茂充, 桑原正喜, 松原義人, 畠中隆郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 第20回日本胸部疾患学会総会 (55.4)

二宮和子, 宮本好博, 宮本茂充, 桑原正喜, 瀧 俊彦, 小鯖 覚, 畠中隆郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 気管ボタン (Tracheostomy Button) による慢性呼吸不全患者の管理, 同上学会 (55.4)

瀧 俊彦, 池田貞雄, 小鯖 覚, 宮本茂充, 宮本好博, 畠中隆郎, 船津武志: Tracheal collapse (特に Saber-Sheath 型) に対する外科的治療, 同上学会 (55.4)

北野司久, カレット・レシャード, 光岡明夫: 漏斗胸に対する胸骨翻転術の検討, 奈良外科学会 (55.4)

カレット・レシャード, 光岡明夫, 北野司久: 気管支内異物により3年間気管支肺炎をくりかえしていた1手術例, 第127回近畿外科学会 (55.5)

宮本好博, 瀧 俊彦, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中隆郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: Saber-sheath 型気管軟化症の外科治療, 同上学会 (55.10)

松谷之義, 松本守海, 山本博昭: 呼吸器運動負荷試験の自動化, 第29回共済医学会総会 (5.10)

小鯖 覚, 宮本好博, 瀧 俊彦, 松原義人, 畠中隆郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺クリプトコッカスの3切除例, 第127回近畿外科学会 (55.5)

Funatsu, T., Taki, T., Matubara, Y., Hatakenaka, R., Miyamoto, Y., Kosaba, S., Ninomiya, K. and Ikeda, S.: Diagnosis and Treatment of Tracheobronchomalacia with Asthmatic Attack, 2nd World Congress for Bronchology (55.6)

Tamada, J., Aoki, M., Shimizu, Y., Itoh, M., Teramatsu, T.: Therapeutic bronchoscopy in the operating room and the recovery room, 2nd World Congress for Bronchology (55.6)

Ito, M., Aoki, M., Tamada, J. and Teramatsu, T.: Significance of the bronchial gland as a local defence mechanism, 2nd W. C. B. (55.6)

Hitomi, S., et al.: TBLB as a Diagnostic Procedure for Sarcoidosis in Japan. A cooperative study in 24 hospitals, 2nd W. C. B. (55.6)

Hitomi, S., Maezato, K., Tachibana, T.: Bronchoscopic Findings and Transbronchoscopic Lung Biopsy in Sarcoidosis, 2nd W. C. B. (55.6)

Aoki, M., Ito, M. and Hirai, K.: A study on the differentiation mechanism of the tracheal glands of rats as indicated by peroxidase activity, 2nd W. C. B. (55.6)

瀧 俊彦, 他7名: Saber Sheath 型気管軟化症の外科治療, 第23回日本胸部外科学会関西地方会 (55.6)

宮本好博, 他7名: 巨大肺膿瘍症の治療, 同上学会 (55.6)

西内 素, 平田 昭, 竹内義広, 福山 守, 岡本交二, 宮本 覚, 中村隆澄, 秦 紘, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 術後乳糜胸5例の経験, 同上学会 (55.6)

千原幸司, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文彌: 胸部CTによる漏斗胸変形の評価: 第23回日本胸部外科学会関西地方会 (55.6)

加藤弘文, 他10名: 肺ノカルディア症の一切除例, 第23回日本胸部外科学会関西地方会 (55.6)

清水慶彦: 気管気管支形成術, 第23回胸部外科学会関西地方会セミナー (55.6)

光岡明夫, カレット・レシャード, 北野司久: 気縦隔造影—CT スキャンの試み, 日本胸部外科学会関西地方会 (55.6)

坂口栄司, 藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦, 志熊 肅, 本田裕宏: Ga scan で nodular uptake を

認めたびまん性肺疾患の1例, 第9回びまん性肺疾患研究会 (55.7)

立花暉夫, 人見滋樹, 前里和夫: 長期観察したサ症の内視鏡, 厚生省サルコイドーシス研究班々会議 (55.8)

倉田昌彦, 岡田英彦, 志熊 肅: 自然気胸の Heimlich valve (逆流阻止弁) 装着による治療——特に外来通院治療について——, 第23回日本胸部外科学会総会 (55.9)

瀧 俊彦, 他7名: 気管気管支軟化症の外科治療, 第33回日本胸部外科学会総会 (55.9)

宮本好博, 他7名: 70才以上の開胸症例の検討, 同上学会 (55.9)

船津武志: シンポジウム気腫性肺嚢胞症の臨床, 同上学会 (55.9)

秋山文彌, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根: 腹直筋有茎性胸骨翻転術の遠隔成績——特に plaston の生着発育児に関する検討——, 同上学会 (55.9)

光岡明夫, カレッド・レシャード, 北野司久: 漏斗胸に対する胸骨翻転術30例の検討, 同上学会 (55.9)

人見滋樹: 新生児, 乳児, 小児の気管支鏡の進歩, 第3回日本気管支研究会総会シンポジウム (55.4)

中島道郎, 立石昭三: 低酸素衰退について, 第9回救急医学会総会 (55.10)

中納誠也: 特別報告, 肺嚢胞症の外科治療の適応について, 第36回日本胸部疾患学会東海地方会 (55.10)

秋山文彌, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根: シネクリニック, 漏斗胸に対する腹直筋直茎性胸骨翻転術 (映画), 第42回日本臨床外科学会総会 (55.10)

小鯖 覚, 八木一之, 宮下好博, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: Morgagni 孔ヘルニアの一手術治験例, 第128回近畿外科学会 (55.11)

宮本好博, 小鯖 覚, 八木一之, 松原義人, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 両側巨大胞のう胞症の外科治療, 第128回近畿外科学会 (55.11)

青木 稔, 伊藤元彦, 平井圭一, 小川和朗: 正常および実験的気管・気管支炎を招来させたラット気管腺の Peroxidase 活性, 第21回日本組織細胞化学会総会

人見滋樹, 前里和夫, 高橋憲太郎, 立花暉夫: サルコイドーシス30症例の気管支鏡所見と TBLB, 第13回近畿気管支鏡懇話会 (55.11)

高橋憲太郎, 前里和夫, 人見滋樹: 肺塞栓症の3例, 第15回日本胸部疾患学会近畿地方会 (55.11)

カレッド・レシャード, 水野 浩, 北野司久: 胸郭形成術後に発生した campilobacter の1症例, 同上学会 (55.11)

立花暉夫, 人見滋樹, 他5名: 過敏性肺臓炎の1例, 同上学会 (55.11)

前里和夫, 高橋憲太郎, 人見滋樹, 立花暉夫: 治療前後で TBLB を行なったサ症3例, 同上学会 (55.11)

松村理司, 立石昭三: Wegener's Granulomatosis の一症例, 第15回日本胸部疾患学会近畿地方会 (55.11)

岡田英彦, 志熊 肅, 飯田恒二, 倉田昌彦, 室本 仁, 藤田正憲: 縦隔偏位と呼吸困難を来した小児の巨大肺のう胞症の1例, 同上学会 (55.11)

宮本好博, 八木一之, 小鯖 覚, 広瀬慎一, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管気管支軟化症の診断と治療, 第45回日本結核病学会近畿地方会, 第15回日本胸部疾患学会近畿地方会 (55.11)

八木一之, 小鯖 覚, 広瀬慎一, 宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: びまん性過誤腫性肺脈管筋腫症の一例, 同上学会 (55.11)

小鯖 覚, 八木一之, 広瀬慎一, 宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管支嚢胞の3手術例, 第45回日本結核病学会, 第15回日本胸部疾患学会 (55.11)

二宮和子, 船津武志, 宮本好博, 八木一之, 広瀬慎一, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 池田貞雄: 巨大肺嚢胞症の治療, 同上学会 (55.11)

立石昭三: 小児気道内異物の除去に際しての問題点, 第317回小児科京都地方会特別発言 (55.11)

小鯖 覚, 宮本好博, 池田貞雄, 八木一之, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志: 呼吸困難乾性咳嗽を主訴としたびまん性肺疾患の1例, 第11回びまん性肺疾患研究会 (55.12)

〔誌 上 発 表〕

1. 腫 瘍

西本 孝, 岡田英彦, 倉田昌彦, 室本 仁, 小川道子, 本田裕宏, 他2名: 肺巨細胞癌の1症例, 肺癌 Vol. 20; 171, 1980.

伊藤元彦, 寺松 孝: 癌の病期分類の問題点——肺癌, 現代外科学体系年刊追補 1979-A, 中山書店

伊藤元彦, 寺松 孝: 日本の肺癌——治療効果の判定基準——, 日本臨床 Vol. 38: 2715, 1980.

伊藤元彦, 和田洋己, 光岡明夫, 高嶋義光, 松延政一, 寺松 孝: 胸腺関連腫瘍の分類と治療, 胸部外科 33: 567, 1980.

中納誠也, 山中 晃, 井上律子, 小林君美: 肋骨原発の細網肉腫の2例, 日本胸部臨床39:494, 1980.

和田洋己, 松延政一, 伊藤元彦: 浸潤性前縦隔腫瘍に対する治療成績の分析, 胸部外科33:424, 1980.

北野司久, 光岡明夫: Nu-マウスを用いる制癌剤感受性検査法(第3報), 最新医学7:1494, 1980.

人見滋樹, 前里和夫, カレッド・レシャード: 転移性肺癌の診断と治療, multidisciplinary treatment のすすめ, 関西電力病院医学雑誌11:206, 1979.

金城 明, 和田洋己, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝, 牛田伸一, 倉沢卓也: 縦隔海綿状血管腫の1例, 京大胸部研紀要13, 1980.

Matsubara, Y., Funatsu, T., Hatakenaka, R., Kuwabara, M., Taki, T., Miyamoto, Y., Kosaba, S., Ninomiya, K., Ikeda, S.: Tumorspezifische Antikörper in den regionalen, Lymphknoten von Patienten mit Bronchial-Karzinom, Praxis und Klinik der Pneumologie Vol. 34(9).

2. 結 核

寺松 孝, 和田洋己, 松延政一: 膿胸の治療法その1(私の治療法), 臨床科学16:373, 1980.

3. 胸腺・免疫

原田孝之, 森川 茂, 伊藤元彦: 自然沈澱法による簡便な細胞塗抹標本作成法, 免疫実験操作法IX, 日本免疫学会編, 1980.

太田光熙, 松原史子, 小西哲郎, 西谷 裕, 倉田昌彦: 重症筋無力症における胸腺摘出術の効果と抗アセチルコリン受容体抗体, 医学のあゆみ115:324, 1980.

Wada, H., Matsunobe, S., Ito, M., and Teramatsu, T.: Comparative analysis of T and B-cell subpopulations in normal thymus and thymus of myasthenia gravis, Bull. Chest. Dis. Res. Inst., Kyoto Univ. Vol. 13, 1980.

松谷之義: 異所性胸腺の発生学的検索, 日本胸部外科学会誌28:1403, 1980.

4. 人 工 材 料

渡部 智, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 村地 孝, 日野常稔: 抗菌性医用材料としての酵素卵白リゾチームまたはポリペプチド系抗生物質ポリミキシンBの固定化, 人工臓器9(1):267, 1980.

渡部 智, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 村地 孝, 日野常稔: ポリペプチド系抗生物質ポリミキシンBを固定化した抗菌性医用材料, 第2回日本バイオマテリアル学会大会論文集3, 1980.

5. 心・血 管

秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根: 連合弁膜症の手術治療における大動脈弁形成術の意義と成績, 日本心臓血管外科学会雑誌10(3):169, 1980.

庄村東洋, 岡部 学, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家武志, 立道 清, 吉栖正之: 急性呼吸不全および悪性高体温症に対する股動脈間バイパスを用いた補助循環の経験, 膜型肺3:49, 1980.

吉栖正之, 庄村東洋: 大動脈内バルーンパンピング法——生理的意義と外科療法との関連について——, 循環器科 Vol. 7(2): 89, 1980.

中村隆澄：急性期心筋梗塞とくに asynergy に対する IABP の効果に関する実験的研究，日本胸部外科学会雑誌 Vol. 8(6)：911, 1980.

宮本 寛，岡本交二，西内 素，中村隆澄，山家 武，立道 清，庄村東洋，吉栖正之，深谷 隆，畠田安彦，馬場国蔵：総肺静脈還流異常症を合併した Fallot 四徴症の1根治手術治験例，胸部外科33(9)：712, 1980.

6. 一般胸部疾患

畠中陸郎，松原義人，船津武志，池田貞雄：呼吸器外科手術書，金芳堂，1980.

山本博昭：草間 悟，駿河敬次郎編，外科重要用語辞典（分担執筆），肺の疾患，金原出版：481, 1979.

伊藤元彦：草間 悟，駿河敬次郎編，外科重要用語辞典（分担執筆），肺腫瘍，金原出版，1979.

伊藤元彦，寺松 孝：肺手術後の社会復帰，今日の臨床外科22：197, 1980.

松延政一，和田洋己，伊藤元彦，寺松 孝，外村聖一：気管気管支巨大症の一例，日本胸部疾患学会雑誌 18(1)：40, 1980.

玉田二郎，寺松 孝：老年者のレントゲン診断，気管支造影，老年医学 Vol. 18(3), 1980.

Kuwabara, M., Taki, T., Hatakenaka, R., Matsubara, Y., Ikeda, S.: The surgical treatment of bullous emphysema, A new method for management of giant bulla, Broncho-Pneumologie Vol. 30(3), 1980.

松延政一，外村聖一，和田洋己，寺松 孝：外科からみた特発性気胸，臨床と研究57(3)：693, 1980.

田辺正也，倉田昌彦，室本 仁，田中 寛：胸部外科領域における CT，外科治療42(4)：423, 1980.

前里和夫，カレッド・レシャード，人見滋樹，寺松 孝：胸膜炎および膿胸の病態とその治療，外科治療 42(6)：697, 1980.

桑原正喜，二ツ矢義一，松原義人，畠中陸郎，宮本好博，宮本茂充，瀧 俊彦，二宮和子，船津武志，池田貞雄：自然血気胸の3例，呼吸と循環28(7), 1980.

瀧 俊彦，小鯖 寛，宮本好博，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：Tracheobronchomalacia（気管・気管支軟化症）の臨床，日本胸部臨床39(7), 1980.

瀧 俊彦，松原義人，小鯖 寛，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄，桑原正喜：両側性気管支拡張症の外科治療，日本胸部臨床39(8), 1980.

宮本好博，二宮和子，小鯖 寛，宮本茂充，瀧 俊彦，松原義人，畠中陸郎，船津武志，池田貞雄：気管ボタンによる慢性呼吸不全患者の管理，日本胸部臨床39(9), 1980.

前里和夫，人見滋樹，高橋憲太郎，カレッド・レシャード，立花暉夫，鈴木庸之：サルコイドーシスの気管支鏡下気管支・肺生検および内視鏡所見，日本胸部疾患学会雑誌18(10)：728, 1980.

人見滋樹：気管支喘息および慢性気管支炎に対する Fenoterol hydromide (Berotec) 錠の臨床効果の検討，臨床と研究57(10)：291, 1980.

カレッド・レシャード，前里和夫，人見滋樹：肺門部リンパ節腫大を呈した一次性，全身性アスペルギローシスの1症例，胸部疾患学会雑誌18(12), 1980.

カレッド・レシャード，前里和夫，人見滋樹，太田 勲：漏斗胸，自験12例の検討，関西電力病院医学雑誌 11(2)：129, 1979.

カレッド・レシャード，吉岡郁子，竹田節子，朝間のぞみ：緑膿菌に対するポビドンヨードの消毒効果の検討，関西電力病院医学雑誌12(1), 1980.

カレッド・レシャード，前里和夫，人見滋樹：漏斗胸——自験例の検討，関西電力病院医学雑誌11(2), 1979.

病 理 学 部 門

1. 肉芽研究

従来行われてきた結核菌体成分による類上皮細胞肉芽の形成実験は，ほぼ所期の目標点に到達し，その形成機構が明らかとなってきた。本年度の進展は形成された病巣の計測で，切片標本をビューアーに投影して，面積計

で計る方法がとられ、データーの読みが精密となってきた。二次抗原のアセチル化によって、壊死を全く伴わない類上皮細胞巣をうる事が出来る。これは肺サルコイドーシス症のモデルと考えることが出来る。肺好酸性肉芽腫症、肺の形質細胞増殖巣のモデル実験については、本年度研究所学術講演会で発表したので本誌にある内容抄録を参照されたい。

〔学 会 発 表〕

安平公夫, 木下和之, 松下隆寿: 肉芽性肺疾患のモデル実験, 昭和55年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会(昭和55年1月)

浜本康平, 馬場満男, 竹下修史, 橋本研二, 安平公夫: 肉芽に関する研究(3) Freund のアジュバント投与によるマウス肺形質細胞増殖, 第69回日本病理学会総会(昭和55年6月)

安平公夫, 浜本康平, 木下和之, 松下隆寿: 肺好酸性肉芽腫症の実験発生, 厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班会議(昭和55年8月)

安平公夫, 浜本康平, 松下隆寿, 田尻 睦: 肺形質細胞肉芽の実験発生, 同上(昭和55年8月)

2. 結合組織研究

マウスの培養線維芽細胞でのコラーゲン合成能, ホルモン添加による影響, 線維成熟におよぼす銅欠乏, ペニシリン添加の影響等従来の研究の進展の他に, 竹田が長年月, 本研究において飼育し続けてきた AKR 由来の早老系マウス7系統が, 系統樹立目前の状態となり, 本年度よりその成果を逐次公表してゆくことになった。以下の研究成果がその内容を示している。なお最後に記載した英語のセミナーは, 12月10日 MERK-SHARP-POHME, RES, LAB より Dr. H.B. WOODRUFF と Dr. Y. HASEGAWA の両氏を迎えて行われたものである。

〔誌 上 発 表〕

Ozasa, H., Tominaga, T., Nishimura, T. and Takeda, T.: Radioautographic demonstration of dehydrotestosterone receptor in cultured human fibroblasts. *Experientia* 36: 1230, 1980.

Takeda, T., Yao, C.-S., Irino, M., Tashiro, S. and Yasuhira, K.: D-Penicillamine toxicity in mice. 1. Pathological findings, *Toxicol. Appl. Pharmacol.* 55: 324, 1980.

小笹 宏, 富永敏朗, 西村敏雄, 竹田俊男: 培養ヒト皮膚線維芽細胞への dihydrotestosterone 作用にかんする研究——特に蛋白コラーゲンおよび DNA 合成能に及ぼすホルモン効果について——, 日本産科婦人科学会雑誌, 32:1597, 1980.

竹田俊男, 細川昌則, 小笹 宏, 富永敏朗: 培養線維芽細胞 androgen receptor とコラーゲン合成能, 厚生省特定疾患皮膚, 結合組織異常調査研究班昭和54年度研究報告書19, 1980.

竹田俊男, 細川昌則, 竹下修史, 入野美香, 樋口京一, 松下隆寿, 富田由美子, 安平公夫, 清水克時, 石井正治, 山室隆夫: 老化モデル動物系統樹立の試み(第2報), 日本基礎老化研究 4:12-13 (1980)

竹下修史, 細川昌則, 入野美香, 樋口京一, 松村敦子, 松下隆寿, 安平公夫, 竹田俊男: 老化モデルマウスにみられる形態学的変化について: 基礎老化研究 4:14-15 (1980)

細川昌則, 竹下修史, 竹田俊男: 老化モデル動物にみられる眼所見: 基礎老化研究 4:16-17 (1980)

清水克時, 笠井隆一, 山室隆夫, 細川昌則, 竹下修史, 松下隆寿, 竹田俊男: 老化モデルマウスにみられる筋, 骨格系変化について, 基礎老化研究 4:18-19 (1980)

〔学 会 発 表〕

清水克時, 笠井隆一, 山室隆夫, 細川昌則, 竹下修史, 竹田俊男: AKR 老化モデルマウスの筋骨格系統—第1報—関節アミロイド沈着について。ワークショップⅣ 疾患モデル動物, 第24回日本リウマチ学会総会(昭55.5)

竹田俊男, 細川昌則, 竹下修史, 入野美香, 松下隆寿, 富田由美子, 安平公夫, 浜本 肇, 清水克時, 石井正治, 山室隆夫: 老化モデルマウスに関する実験的研究Ⅰ, 系統樹立の試み, 第69回日本病理学会総会(昭55.6)

細川昌則, 石井正治, 竹田俊男: 結合織に関する実験的研究 10. 性ホルモン感受性よりみたマウス線維芽細胞の臓器特異性について, 第69回日本病理学会総会 (昭55.6)

入野美香, 田代真一, 竹田俊夫, 安平公夫: D-Penicillamine 投与マウスにみられる病的所見発現と臓器銅含量との関連について, 第69回日本病理学会総会 (昭55.6)

細川昌則, 小笹 宏, 石井正治, 竹田俊男: コラーゲン合成, 成熟と内分泌, 第2回日本結合組織学会総会, シンポジウム II: 線維化の機序と病態 (昭55.7)

竹下修史, 細川昌則, 清水克時, 入野美香, 松下隆寿, 安平公夫, 竹田俊男: 「老化モデルマウス」における自然発生アミロイド症の形態学的特徴, 第12回日本結合組織学会 (昭55.7)

鳴尾好人, 長沢史朗, 奥村 厚, 半田 肇, 竹田俊男: クモ膜下腔自家血注入犬における脳底部主幹動脈結合組織成分の変化と力学的性質について, 第12回日本結合組織学会総会 (昭55.7)

清水克時, 笠井隆一, 山室隆夫, 細川昌則, 竹田俊男: AKR 老化モデルマウスの関節アミロイド沈着——カゼイン誘導マウスアミロイド症との比較——第8回骨, 関節の基礎を語る会 (昭55.10)

笠井隆一, 奥村秀雄, 山室隆夫, 竹田俊男, 新納英夫: 微量元素 (銅, 錫) の骨組織に対する影響, 第8回骨・関節の基礎を語る会 (昭55.10)

石井正治, 藤原祐三, 山室隆夫, 滋野長平, 竹田俊男: 線維性骨異形成症とホルモン, 第55回中部日本整形外科災害外科学会 (昭55.11)

Seminar

on

An Animal Model of Accelerated Senescence in Mice

Guest Discussor: Dr. H. B. Woodruff and Dr. Y. Hasegawa

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 1. Opening Remarks. | Prof. K. Yasuhira |
| 2. Development of an Animal Model of Accelerated Senescence in Mice. | Dr. T. Takeda |
| 3. Pathological Study on an Animal Model of Accelerated Senescence in Mice. | Dr. S. Takeshita |
| 4. Biochemical Features of Systemic Amyloidosis in an Animal Model of Accelerated Senescence in Mice. | Dr. K. Shimizu |
| 5. Ophthalmologic Findings in an Animal Model of Accelerated Senescence in Mice. | Dr. M. Hosokawa |
| 6. Musculoskeletal Changes in an Animal Model of Accelerated Senescence in Mice. | Dr. K. Shimizu |
| 7. On a Grading Score System for Evaluation of Senescence in Mice | Dr. M. Hosokawa |

Discussion

December 10, 1980

at the Chest Disease Research
Institute, Kyoto University

3. 免疫研究

現在研究活動は行われていない。下記の論文も、往時の研究についての報告の1部である。

〔誌 上 発 表〕

Tatsumi, E., Takiuchi, Y., Domae, N., Shirakawa, S., Uchino, H., Baba, M., Yasuhira, K. and Morikawa, S.: Suppressive activity of some leukemic T cells from adult patients in Japan. Clin. Immunol. Immunopathol. 15: 190-199, 1980.

4. 化学発癌

研究の主力は、発癌剤 3-methylcholanthrene の代謝産物のガスマスによる同定である、この研究方法は、世界

に先駆けて、高橋によって化学発癌の研究領域に導入されたもので、高橋退任の後もなおこの方法による研究領域の拡大進展が計られている。

〔誌 上 発 表〕

Kinoshita, K., Hashimoto, K., Takahashi, G. and Yasuhira, K.: Gas chromatographic-mass spectrometric analysis of 3-methylcholanthrene metabolism *in vivo*. Gann. 71: 181-189, 1980.

〔学 会 発 表〕

安平公夫, 橋本研二, 木下和之, 鈴木康弘: Microsomal oxidation における MC の代謝 (GC-MS による検討), 第53回日本生化学会大会 (昭55.10)

安平公夫, 橋本研二, 木下和之, 鈴木康弘: GC-MS による 3-methylcholanthrene (MC) 代謝産物同定 (2) Microsomal oxidation, 第39回日本癌学会総会 (昭55.11)

5. 表面活性物質研究

肺の表面張力は、肺泡レシチンのパルミチン酸含量に依存することが大きいという従来の研究を更に発展させ、このたびは各種のレシチン、殊にそのパルミチン酸含量を変化させた種々な表面活性物質を再構成し、その活性を比較検討した。

〔誌 上 発 表〕

Tabata, R., Muraoka, R., Suzuki, Y., Yasuhira, K., Shimizu, S. and Okuda, R.: Clinical and pathological study of the lungs in cases of neonatal respiratory distress, with special reference to biochemical and physicochemical properties of pulmonary surfactant. Ann. Pediat. Jap. 25: 189-206, 1979.

重松・百井・須藤・上野・鈴木: MCT Milk 摂取時の尿中有機酸の検討。Proc. Jap. Soc. Med. MS., 5:119-1980.

Suzuki, Y. and Tabata, R.: Selective reduction of PG and PC in Pulmonary surfactant by 4-APP in the rat. J. Lipid Res. 21: 1090-1096, 1980.

〔学 会 発 表〕

中井栄一, 鈴木康弘, 北市正則, 徐 航霽, 浅本 仁, 古田睦広: フリーズフラクチャー法による正常ラット, マウスの肺表面活性物質の観察, 第69回日本病理学会総会 (昭55.6)

鈴木康弘, 橋本研二, 中井栄一, 大川欣一: 肺表面活性物質に関する実験的研究——表面活性物質の再構成について, 第69回日本病理学会総会 (昭55.6)

重松, 百井, 須藤, 上野, 鈴木: MCT milk 摂取時の尿中有機酸の検討 第5回医用マス研究会 (昭55.10)

6. 臨床病理検査

この研究グループは、病理組織学に関係の深い臨床検査部病理部門のメンバーが協力して研究を行うもので、ここには本年度業績に加えて、昨年度遺漏の1業績を挙げておく。

〔誌 上 発 表〕

松下隆寿, 小岸久美子, 富田由美子: 各種臓器の染色性に対する脱灰液の影響, 京都府臨床衛生検査技師会々誌 6:64-68 (1979)

竹田俊男, 細川昌則, 黒住真史: 気管支非定型カルチノイド, 日本臨床発刊: 内科から病理へ 第3集, 570, 1980.

7. 研究室人物往来

定員教官は従来通り、安平、竹田、鈴木、細川の4氏。非常勤講師は水島、五十嵐両氏が御退任。両氏に支えられて、病理部も大いに成長することが出来感謝です。熊沢、馬場、鶴藤3氏は継続、新たに三井洋司 (東京

都老人総合研究所薬理部長), 山本寛(倉敷中央病院病理部長), 新納英夫(京都女子大教授), 小原幸信(国立宇多野病院)の4氏に御参加頂きました。以上は総長発令であります。別に所長発令の非常勤講師として笹瀬博次(国立療養所兵庫中央病院長), 羽田 淳(岐阜市民病院副院長), 宗実琴子(宗実病院)の3氏に御参加をお願いした。医員の木下氏は10月末をもって国立療養所京都南病院へ転出。臨床と病理検査の二本立てを目指すもののようで, 建設的な仕事の重みに耐えて, 新しい道を開くよう願って止まない。研修員としては, 竹下, 松村氏が継続。新たに浜本康平氏(京都病院)が参加, 肺肉芽腫の実験発生に関する以前の仕事を完成することになった。大学院生としては, 主課目研修者としての従前の橋本, 入野両氏に加え, 新たに樋口京一氏(農学部修士課程卒)が参加。副課目研修生としては小笹 弘氏(主課目, 産婦人科)はアメリカに留学, 残るは清水, 石井(共に主課目整形外科)両氏が実験を進めている。その他技術修得の短期研修者として旗持淳(川崎医大皮膚科)小山健一(国立療養所南京都病院)の両氏が教室に滞在した。研究室技官は松下, 小岸両氏, 技能員として冨田氏, 産休の代替え要員として冬季のみ鈴木富美子氏。

細胞化学部門

〔学会発表〕

市川康夫: In vitro での好中球・マクロファージの分化——正常ならびに白血球の場合, 第20回日本網内系学会特別講演(昭55.5, 京都)

永田和宏, 相良淳二, 市川康夫: 骨髓性白血病細胞の分化に伴う細胞質アクチンの性質の変化, 第53回日本生化学会大会(昭55.10, 東京)

宗川吉注, 永田和宏, 市川康夫: 骨髓性白血病細胞 M1 における非分泌型インターフェロンの特異的生産, 同上学会

相良淳二, 永田和宏, 市川康夫: 骨髓性白血病細胞のアクトミオシン, 第18回日本生物物理学会年会(昭55.10, 東京)

永田和宏, 相良淳二, 市川康夫: マウス骨髓性白血病細胞の増殖と分化, XVI 報, 分化に伴う細胞内アクチンの性質の変化, 第39回日本癌学会総会(昭55.11, 東京)

永田和宏, 相良淳二, 市川康夫: マウス骨髓性白血病細胞の増殖と分化, XVII 報, 分化促進因子に対する抵抗株のアクチンの重合能, 同上学会

相良淳二, 永田和宏, 市川康夫: マウス骨髓性白血病細胞の増殖と分化, XVIII 報, ミオシンの性質について, 同上学会

市川康夫: マクロファージと好中球への分化のふり分け, 第4回内藤財団シンポジウム「生体防御の機構」(昭55.11, 東京)

市川康夫: 骨髓性白血病細胞の分化, 第26回日本病理学会秋季特別総会招請講演(昭55.11, 東京)

〔誌上発表〕

K. Nagata, J. Sagara & Y. Ichikawa: Changes in contractile proteins during differentiation of myeloid leukemia cells. I. Polymerization of action. J. Cell Biol. **85**, 273-282, 1980.

M. Maeda & Y. Ichikawa: Production of a colony-stimulating factor following differentiation of leukemic myeloblasts to macrophages. J. Cell. Physiol. **102**, 323-331, 1980.

M. Maeda, Y. Ichikawa & I. Azuma: Differentiation and production of colony-stimulating factor induced by immunostimulants in a leukemia cell line. J. Cell. Physiol. **105**, 25-32, 1980.

細菌血清学部門

〔学会発表〕

Hosono, M. and Fujiwara, M.: Requirement of aged thymic influence for the development of the resistance to tolerance induction. 4th International Congress of Immunology, Paris, July 1980.

Fujiwara, M., Hosono, M. and Kuhara, T.: Temporal induction of immunological tolerance in T cell precursors in bone marrow. XIXth International Symposium on Biological Models, Brno, July 1980.

桂 義元：細胞性免疫の発現機序——細胞性免疫に関与する細胞およびメディエーター，第23回日本臨床病理学会近畿支部総会（I），（昭和55.6月）京都

桂 義元，高沖悠子，細野正道，喜納辰夫，西川伸一：アロ抗原に対する遅延型過敏症——*in vivo* 及び *in vitro* における誘導，第10回日本免疫学会総会（昭55.12月）熊本

細野正道，桂 義元：腹腔マクロファージを標的細胞とした細胞障害性T細胞活性の測定法，第10回日本免疫学会総会（昭55.12月）熊本

喜納辰夫，西川伸一，桂 義元：ウイルス感受性T細胞の免疫機能，第10回日本免疫学会総会（昭55.12月）熊本

〔誌 上 発 表〕

Takahashi, C. and Katsura, Y.: Hapten-specific virus-replicating T cells: Analysis of the functional role in contact sensitivity. J. Immunol., **124**, 2721-2727 (1980)

Nishikawa, S., Takaoki, M. and Katsura, Y.: *In vitro* studies on the immunological memory for antibody response to bovine serum albumin. Microbiol. Immunol., **24**, 671-682 (1980)

Katsura, Y., Takaoki, M., Kono, Y. and Minato, N.: Augmentation of delayed-type hypersensitivity by vesicular stomatitis virus infection in mice. J. Immunol., **125**, 1459-1462 (1980)

桂 義元：細胞性免疫の発現機序——細胞性免疫に関与する細胞およびメディエーター，臨床病理，**28**，1068-1074 (1980)

臨床肺生理学部および放射線科

〔学会・研究会発表〕

佐川弥之助：肺水腫，とくにARDS成立機序との関連，シンポジウム「肺水腫」，第7回日本集中治療医療医学学会総会，1980.2.

宮本茂充，佐川弥之助：長期気管切開患者における発声の試み，厚生省「呼吸不全」調査研究班昭和54年度総会，1980.2.

李 勝弘，安井浩明，島田一恵，佐川弥之助：呼吸不全に対する気管切開の問題点，厚生省「呼吸不全」調査研究班昭和54年度総会，1980.2.

島田一恵，宮本茂充，佐川弥之助：慢性呼吸不全に対する機械呼吸の使用経験，厚生省「呼吸不全」調査研究班昭和54年度総会，1980.2.

大井元晴，町田和子，下出久雄，芳賀敏彦：慢性呼吸不全の安定期の患者管理，特に急性増悪の治療と関係づけて，厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和54年度第2回総会，1980.2.

平田和男，安田隆三郎，他10名：開心術後（2），IABPを使用し救命しえた症例について，第8回滋賀県循環器疾患研究会，1980.2.

田巻俊一，平田岩男，安田隆三郎，他7名：頻回に狭心発作をきたし，A-Cバイパス術により軽快した不安定狭心症の1例，同上，1980.2.

町田和子，大井元晴，芳賀敏彦：慢性呼吸，心不全患者のジキタリス投与——血中濃度と臨床症状，臨床検査値との関係——厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和54年度第2回総会，1980.2.

佐川弥之助：呼吸不全の基礎と臨床，倉敷中央病院内科集談会，1980.3.

加藤幹夫：びまん性肺疾患における低酸素症の診断と治療，西部胸部疾患懇談会，1980.3.

加藤幹夫：肺機能の問題点——運動負荷，討論——外科的立場から，第20回日本胸部疾患学会総会，シンポジウムⅢ，1980.4.

大井元晴, 町田和子, 下出久雄, 芳賀敏彦: 慢性呼吸不全の安定期の管理と急性増悪, 第20回日本胸部疾患学会総会, 1980.4.

徐 航霄, 矢野博正, 佐藤公彦, 加藤幹夫, 佐川弥之助, 稲葉宣雄: Kartagener 症候群における気道線毛の電子顕微鏡的観察, 第20回日本胸部疾患学会総会, 1980.4.

佐野 求, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 低酸素性肺血管収縮反応に及ぼす Sodium nitroprusside の影響, 第20回日本胸部疾患学会総会, 1980.4.

佐川弥之助: 司会「ARDS」箱根呼吸器疾患シンポジウム, 1980.5.

Hang Hsiao Hsu, Eiichi Nakai, Mikio Kato, Yanosuke Sagawa: Observation of Ozon-Exposed Mouse Trachea by the Freeze Fracture Method. The 2d. World Congress for Bronchology June 2~4 1980.

T. Kahi & S. Hanawa: Diagnostic and Therapeutic Value of Fiberoptic Bronchoscopic Procedures in the Intensive Care Unit and the Recovery Room. The 2nd World Congress for Bronchology June 1980. (Düsseldorf, West Germany)

石部裕一他: ケタミン点滴静注法の肺循環に及ぼす影響, 第27回日本麻酔学会総会, 1980.6.

高木, 石部他: サイアミラルのカリウム低下作用に及ぼす肝切除の影響, 第27回日本麻酔学会総会, 1980.6.

煤田, 石部他: ケタミンの昇圧作用に及ぼす全脊麻の影響, 第27回日本麻酔学会総会, 1980.6.

岡田英彦, 倉田昌彦, 藤田正憲, 室本 仁: Bronchofiberscopic Examination for Screening of the Malignant Lung Tumors. 第2回世界気管支鏡学会議(西ドイツ・デュッセルドルフ) 1980.6.

弘野慶次郎, 市谷迪雄, 坪井裕志: 癌性心膜炎に対する開窓術の1経験例, 日本胸部外科学会関西地方会, 1980.6.

徐 航霄, 中井栄一, 加藤幹夫, 佐川弥之助: フリーズフラクチャー法によるオゾン (O₃) 暴露マウス気管の超微形態学的変化, 第69回日本病理学会総会, 1980.6.

徐 航霄, 北市正則, 中井栄一, 鈴木康弘: フリーズ, フラクチャー法による正常ラット・マウスの肺表面活性物質の観察, 第69回日本病理学会総会, 1980.6.

加藤幹夫: じん肺症について, 京都地方裁判所講習会, 1980.6.

藤田正憲, 坂口敬司, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦: Ga スキャンで nodular uptake をみとめたびまん性肺疾患の1例, 第9回びまん性肺疾患研究会(大阪) 1980.7.

佐川弥之助: 呼吸器疾患における最近の話題, 新香里病院集談会, 1980.7.

李泰興, 安田隆三郎, 他11名: A-C バイパス術を施行した Variant angina の1例について, 第9回滋賀県循環器疾患研究会, 1980.7.

安田隆三郎, 李 泰興, 他12名: 僧帽弁再狭窄症の2手術例について, 同上, 1980.7.

佐川弥之助, 久野健志, 中川正清, 山田公二, 三嶋理晃, 安井浩明, 東谷康治: 体外計測による肺循環動態と解析, 第21回閉塞性肺疾患研究会, 1980.8.

飯田恒二, 藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦: 縦隔, 胸腺扁平上皮癌の2症例, 第33回肺癌学会関西支部会(大阪) 1980.8.

市谷迪雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 北野司久: 術前術後の肺機能の変化からみた気腫性巨大肺嚢胞症の手術適応, 日本胸部外科学会総会, 1980.10.

室本 仁, 藤田正憲: 肺癌の診断治療の最近の知見について, 近畿郵政病院診療所研究会(大阪) 1980.10.

石部裕一他: 食道癌根治術後の呼吸循環動態の検討, 第26回日本麻酔学会関西地方会(滋賀) 1980.10.

竹内, 石部他: ラリングマイクロに対する NLA 変法, 同上, 1980.10.

宮本, 石部他: 全身麻酔中に発生した心筋硬塞症例の検討, 同上, 1980.10.

安田隆三郎: 滋賀県成人病センターにおける心臓外科の現況について, 野洲守山医師会, 1980.10.

煤田, 石部他: 中央手術部内検査室について, 近畿大学方式の検討, 第2回手術部研究会, 1980.10.

佐川弥之助: 司会「ARDS」ACCP 日本支部学術講演会, 1980.10.

田苗英次: 後天性心疾患の手術について, 人吉市医師会(熊本) 1980.10.

田苗英次: 外科的観点からみた心臓の形態, 熊大解剖学教室, 1980.10.

加藤幹夫, 大成功一, 平井正志: 火災事故被災者の肺機能障害について, 西部肺機能同好会, 1980.11.

藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦: 上大静脈症候群を呈した肺癌18例の検討, 第21回日本肺癌学会総会(東京) 1980.11.

岡田英彦, 藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦: 縦隔偏位と呼吸困難を来した小児の巨大肺のう胞症, 第16回胸部疾患学会近畿地方会(京都) 1980.11.

田苗英次: 心臓外科の最近の話題, 熊大麻酔学教室, 1980.11.

佐川弥之助: ARDS をめぐって, シンポジウム「肺水腫」, 日本臨床生理学会総会, 1980.11.

藤野昇三, 安田隆三郎, 李 泰興, 他14名: 動脈管依存性チアノーゼ心疾患に対する治療法——動脈管ホルマリン固定術——, 第10回滋賀県循環器疾患研究会, 1980.11.

安田隆三郎, 李 泰興, 他7名: 心臓原発腫瘍の2手術例について, 同上, 1980.11.

安田隆三郎, 李 泰興, 他5名: 縦隔腫瘍の7症例について, 滋賀県外科医会, 1980.11.

藤田正憲, 室本 仁: 呼吸不全と脳髄膜炎をともなったマイコプラズマ肺炎の1例, 第103回内科学会近畿地方会(大阪) 1980.12.

野尻知里, 田苗英次, 井清司: 発作性上室性頻拍症に対するペースメーカー治療の一例, 循環器学会九州地方会(福岡) 1980.12.

井 清司, 田苗英次, 野尻知里, 石橋健治朗: 小児の弁形成術の三例——左室コンプライアンスによる検討——, 循環器学会九州地方会(福岡) 1980.12.

岡田 融: Small Cell Carcinoma の治療と予後, 第3回京大胸部研肺生理学部門研究会, 1980.12.

大井元晴, 佐藤公彦: 末梢に発生した巨大腫瘤を形成したカルチノイドの1例, 同上, 1980.12.

野尻知里, 井 清司, 田苗英次: SVC 症候群を呈した胸腺腫瘍の1例, 同上, 1980.12.

甲斐隆義: 肺癌診断における経皮的針生検の有用性について, 同上, 1980.12.

平井正志: 火災事故被害者の肺機能について, 同上, 1980.12.

山口 力, 佐本昌平: 側彎症と胸郭について, 同上, 1980.12.

大成功一: SLE に合併した気管支結核の1例, 同上, 1980.12.

山岡久泰: 小児の Pneumocystitis Carinii の1例, 同上, 1980.12.

藤田正憲, 吉政孝明, 河崎 昭, 室本 仁, 本田裕宏: 出血性膀胱炎とエンドキサン肺臓炎を併発した悪性リンパ腫の1例, 同上, 1980.12.

安井浩明, 久野健志, 中川正清, 三嶋理晃, 岩井和郎: 特異な臨床経過をたどり Cornification's Pneumonia with Interstitial Pneumonia との組織診断を得た1症例, 同上, 1980.12.

李 勝弘, 浅井信明: 胸部圧傷による右主気管支完全断裂の1治療例, 同上, 1980.12.

市谷迪雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: モルガニー孔ヘルニアの4例, 同上, 1980.12.

弘野慶次郎, 坪井裕志, 市谷迪雄: 癌性心膜炎の心膜切除の経験, 同上, 1980.12.

加藤達治, 延吉正清: 原発性肺高血圧症と思われた5例, 同上, 1980.12.

石部裕一: 食道癌根治術後の呼吸循環動態の検討, 同上, 1980.12.

東谷康治, 久野健志, 中川正清, 三嶋理晃, 安井浩明: 体外計測による肺循環動態の研究, 同上, 1980.12.

島田一恵, 安田隆三郎, 李 泰興: 慢性呼吸不全の急性増悪例における循環動態, 同上, 1980.12.

末次 勸: 解熱鎮痛剤喘息(アスピリン喘息)に関する臨床的研究, 同上, 1980.12.

〔誌 上 発 表〕

佐川弥之助, 矢野博正: 老年者の肺機能, 急性肺水腫, 老年医学, 18:87, 1980.

佐川弥之助: 呼吸不全の基礎と臨床, 小倉紀要, 13:1, 1980.

佐川弥之助: 大気汚染による呼吸障害を疫学的に検出するための呼吸機能検査法の検討調査報告書, 京都市公害防止計画研究会, 1980.

宮本茂充, 佐川弥之助: 長期気管切開患者における発声の試み, 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和54年度研究業績, 1980.

- 李 勝弘, 安井浩明, 島田一恵, 佐川弥之助: 呼吸不全に対する気管切開の問題点, 同上.
- 島田一恵, 宮本茂充, 佐川弥之助: 慢性呼吸不全に対する機械呼吸の使用経験, 同上.
- 佐川弥之助, 李 勝弘: 肺ノカルディア症, Nikkei Medical, 6. 1980.
- 佐川弥之助, 久野健志: 解離性大動脈瘤, Nikkei Medical, 7. 1980.
- 佐川弥之助, 久野健志: Liposarcoma の肺転移, Nikkei Medical, 8. 1980.
- 佐川弥之助: 肺胞上皮癌, Nikkei Medical, 9. 1980.
- 佐川弥之助: 左肺動脈欠損症, Nikkei Medical, 10. 1980.
- 佐川弥之助: 硬化性血管腫, Nikkei Medical, 11. 1980.
- 加藤幹夫: 肺高血圧症の治療, メデカルニュース, No. 226: 21-23, 1980.
- 加藤幹夫: 呼吸器系感染症の起こりやすい体質, メデカルニュース, No. 227: 25-27. 1980.
- 前川暢夫, 加藤幹夫, 他: 臨床医学の展望, 呼吸器病学, 日本医事新報, No. 2912: 3-10 1980.
- 加藤幹夫: 第2回世界気管支学会, 座長コメント mucocilliary function. 気管支学2:240-241, 1980.
- 加藤幹夫: 肺水腫, 今日の治療指針, 220, 1980.
- 加藤幹夫: 運動負荷と呼吸, 司会者のまとめ, 呼吸と循環29:28, 1980.
- 加藤幹夫: シンポジウム肺機能の問題点——運動負荷——討論——外科領域における応用について, 日胸疾会誌 18:719, 1980.
- 市谷迪雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: 肺結核における右心負荷心電図と換気機能との関係, 日赤医学31巻第3号, 1980.2.
- 西本 孝, 岡田英彦, 倉田昌彦, 室本仁, 小川道子: 肺巨細胞癌の1例, 肺癌20巻2号, 171-175, 1980.6.
- 田中 寛, 室本 仁, 倉田昌彦, 田辺: 胸部外科領域におけるCT. 外科治療, 42巻4号, 423-437, 1980.
- 大井元晴, 町田和子, 下出久雄, 芳賀敏彦: 慢性呼吸不全の安定期の患者管理, 特に急性増悪の治療と関連づけて, 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和54年度研究業績.
- 大井元晴, 石塚葉子, 米田良蔵, 芳賀敏彦, 栗崎博司: 興味ある経過をとった呼吸管理の一例, 臨床呼吸生理 Vol. 12 No. 1 45-50. 1980.
- 長山直和, 大井元晴他: 縦隔気腫, 自然気胸を併発した粟粒結核症の2例, 日本胸部臨床, Vol. 39, No. 11, 958-964 1980.
- 高木, 石部他: 血液加温器用 air trap の試作, 臨床麻酔4・1, 108-109, 1980.
- 楳田, 石部他: 動脈血を用いる電解質測定の問題点, 近大医誌5, 1・2, 59-66, 1980.